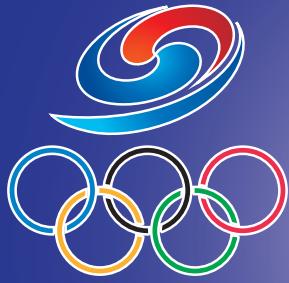




Go to the World from Korea Japan

スポーツを通じて 世界へ羽ばたけ



대한체육회



재일본대한체육회

創立 70 周年
在日本大韓体育会

2024年 4月2日 帝国ホテル東京・富士の間

歴代会長



初代

柳泰夏
1953年5月5日～



2代

崔圭夏
1956年4月10日～



3代

李裕天
1960年4月16日～



4代

李允求
1961年3月11日～



5代

辛熙
1962年9月8日～



6代

鄭泰柱
1967年7月26日～



7代

范眞圭
1969年4月5日～



8代

鄭建永
1971年9月20日～



9代

蔡洙仁
1979年3月24日～



10代

金昌式
1985年6月16日～



11代

金英宰
1988年6月23日～



12代

許寧太
2000年5月23日～



13代

朴安淳
2006年4月21日～



14代

崔相英
2012年4月21日～



苦難期の祖国への貢献光る

1948年のサンモリッツ五輪(冬季)、ロンドン五輪(夏季)から今日に至るまで、西側諸国がボイコットした80年のモスクワ五輪を除き、韓国は五輪に欠かすことなく選手団を派遣し、世界のスポーツ界で名誉ある地位を築いてきた。

しかし南北の分断、同じ民族同士の戦争など、苦難の歴史を辿った韓国は、いまでは想像できないことだが、長く貧困に苦しむ時代が続いた。そうした中でも、スポーツ活動を続けることができたのは、韓国のスポーツ関係者の努力とともに、祖国を思い、尽力してきた在日韓国人の献身的な支えがあったからだ。

祖国の五輪初参加を全面支援

1948年のサンモリッツ五輪は、役員2人、選手3人の小規模選手団であったが、ロンドン五輪は、役員17人、選手52人という規模であった。

ロンドン五輪の選手団の役員には、解放前に開催された1936年のベルリン五輪に日本代表として出場し、金メダルを獲得したマラソンの孫基禎、銅メダルの南昇龍がいたほか、選手には明



1948年ロンドンへの出発を前に横浜港で



1952年ヘルシンキ五輪へ出発する韓国選手団(ソウル飛行場)。在日体育会は賛助金約1000万円を集め、ユニフォームを始めトランクケース、競技用器具などを寄贈した

大、早大などの留学経験者も多くいた。

当時の韓国はアメリカ軍政下。イデオロギーの対立などで混乱を極めていた。ロンドン五輪は選手団の規模が当時としては大きく、選手団の派遣にあたっては、在日の助けが必要であった。

解放後の在日社会では、1947年4月12日に蔡洙仁を会長とする在日本朝鮮人体育協会を組織。在日社会でのスポーツ活動を行っていたが、祖国の五輪出場が決まると、彼らが中心となって支援活動を行った。

1952年のヘルシンキ五輪は韓国戦争のさなかであり、韓国は参加すること自体が困難であった。そこで在日韓国オリンピック後援会が組織され、募金活動を行った。選手団のユニホーム、レインコート、ボストンバックをはじめ、各競技に必要な用具を贈呈した。

さらに、戦争で十分な練習ができない選手たちのために、日本で練習できるように合宿の場所や練習相手のセッティングも行った。ヘルシンキ五輪には当時の蔡洙仁在日本朝鮮体育協会会長も韓国選手団の一員として帯同した。

このような本国と在日のスポーツ関係者との結びつきを受けて、「在日本朝鮮人体育協会」を発展的に解消させ、1953年5月5日に国交正常化前に大使館の役割を担った駐日韓国代表部の公使である柳泰夏を初代会長として「在日本大韓体育会」が組織された。1956年7月14日には、大韓体育会の日本支部として正式承認されることになる。



体育会結成の礎となつた、建青の空手部員たち。中央は極真空手の創始者である大山倍達(崔永宜)氏



1956年8月、初めて訪韓した在日学生野球団の学生を景武台(後の青瓦台、現在の大統領室)で迎える李承晩大統領。翌年からは張本選手も参加している



スポーツで在日社会に勇気

在日高校球児集め祖国訪問試合

1956年の夏からは、主に甲子園大会に出場できなかった在日の高校球児を集めて在日僑胞学生野球団を結成し、韓国で試合を行うようになった。在日僑胞学生野球団の祖国訪問試合は、韓国各地で高い関心を呼び、韓国野球の発展に寄与した。

この遠征は1997年を最後に、行われなくなったが、この祖国訪問試合のメンバーには、日本プロ野球最多の通算3085安打を放った張本勲（張勲）、広島初優勝に貢献した金城基泰（金基泰）、中日などの強肩捕手として活躍した中村武志（姜武志）、横浜の中心打者であった金城龍彦（金龍彦）ら、日本や韓国の中球界で活躍する多くの人材が名を連ねる。

韓国プロ野球屈指の名将で野神（野球の神様）と呼ばれた京都出身の金星根も、この韓国遠征をきっかけに祖国との縁ができた。

韓国国体に1万人以上派遣

在日本大韓体育会は創立以降、各種国際大会に出場する韓国選手団のサポートや、在日スポーツ振興のための事業を展開した。特に、1953年から今日まで毎年、韓国の国民体育大会（国体）に在日選手団を派遣。通算選手数は延べ1万人をこえている。

かつては国籍要件により日本の国民体育大会などに参加できなかった在日選手にとっては、貴重な活躍の機会になっていた。

その中には、レスリングの韓国代表としてミュンヘン五輪に出席した元プロレスラーの長州力（郭光雄）、格闘家として韓国でも人気の秋山成勲（秋成勲）、箱根駅伝の山登りでも活躍したマラソンの金哲彦、元日本代表選手で早稲田大学の主将・監督を務めた伝説のラガーマン・豊山京一（崔京浩）など、韓日のスポーツ界に名を残したアスリートが多くいる。

さらには、1964年の東京五輪の銅メダリストである金義泰（天理大学出身）、1972年ミュンヘン五輪の銀メダリスト・吳勝立（天理大学出身）、1976年モントリオール五輪の銅メダリスト・朴英哲（東洋大学出身）、そして、2021年の東京五輪の銅メダリスト安昌林（筑波大学→韓国・龍仁大学）といった柔道のメダリストも



韓国国体参加2回目の入場行進で優勝した表彰状（1954年）

いる。

2021年の東京五輪2020に出場した在日3世の安昌林は45年ぶりに在日選手として五輪でのメダル獲得となった。

58年アジア大会、建国高が代表

1958年の第3回アジア競技大会東京大会でホッケーチームを構成できなかった韓国は、当時、日本の全国高校ホッケー選手権で3連覇（1954～1956年）する実績を持っていた建国高校に出場を要請。韓国代表として参加した建国チームは開催国の日本を抑えて銅メダルを獲得した。

建国高校のホッケー部OBの多くは在日本大韓体育会の役員となり、ホッケー界でも関東では法政大学、関西では天理大学に進学して日本学生フィールドホッケーの発展に大きく貢献した。

ソウル五輪に100億円の誠金

1981年9月30日、西ドイツのバーデンバーデンでのIOC総会で、ソウル市が名古屋市を破って1988年五輪開催地に決まった。民団では直ちに「在日韓国人後援会」（李熙健会長）を結成し、全団的な募金運動を展開した。在日本大韓体育会でも民団とスクラムを組みながら全組織をあげて、募金運動や選手育成に取り組んだ。

植民地による苦難と韓国戦争による廃墟から「よくぞここまで



東京五輪在日韓国人後援会が発足、代表選手団の歓迎会や親族招請に尽力した（1964年）



1958年東京アジア大会に韓国代表として出場し銅メダルを獲得した建国高校ホッケーチーム



国際大会の開催を積極支援

蘇った」と、祖国への思い入れが強かった1世世代を中心に、全国津々浦々の団員から寄せられた誠金は100億円にのぼる。韓国での一般募金額としても過去最高額を記録した。また、同大会には水泳などに在日同胞2世の選手4人が韓国代表として出場した。

韓日共催の2002年FIFAワールドカップでも、本会では大会成功に向け、韓日友情ムードを高めていく活動を展開した。両国が揃って出場した1998年フランスW杯には「韓日共同応援団」を企画し、現地で韓日両国の試合を観戦し、エール交換した。その後、2002年に向けて「ふれあいKJクラブ」を結成した。

韓日から世界への懸け橋として

韓国で初の冬季五輪開催となる2018年の平昌大会成功のため、体育会では過去に札幌や長野大会で冬季五輪を支援したノ



1988年五輪開催地がソウルに決定し、万歳をして喜び合う同胞たち（1981年9月30日）



平昌五輪組織委員会に募金2億円を伝達（2018年1月24日）



リオ五輪のコリアハウスで意見交換する、李熙範委員長、バッハIOC会長、崔相英会長（2016年）

ウハウを生かそうと、日本各地で広報活動を展開した。2016リオ五輪の支援に赴いたブラジルで崔相英会長は2018平昌五輪組織委員会の李熙範委員長とIOCのバッハ会長と面談するとともに、日本で「在日韓国人後援会」を結成した。

平昌冬季五輪に2億円の誠金

2018年1月24日、平昌冬季五輪組織委員会を訪れ、大会成功のために、在日同胞社会で集めた募金2億円を李熙範委員長に伝達。在日後援会の誠金は選手団のサポートに貢献しただけでなく、パラリンピックの開催にも積極的に活用した。

社会的弱者の観覧サポートや足の不自由な人の移動をサポートする車椅子、リフト付きバンなどの購入などにも使用され、障害者スポーツの振興に向けて有意義に使用された。

2021年の東京五輪2020はコロナ禍での開催とあって、選手団の規模が制限される中でも、本会は積極的に韓国選手団のサポートに尽力した。



ロンドン五輪で韓国選手団の健闘を祈願し激励金を伝達する崔相英本会会長（2012年）



ジャカルタアジア大会のコリアハウスで、韓国選手団の健闘を祈願し激励金を伝達する本会会長団



スポーツを通じて世界へ羽ばたく

韓国代表チームをサポート

本会はこれまで、韓国代表や日本で開催される国際スポーツイベントへの支援活動を行ってきた。

本会が大韓体育会の日本支部として公認されるきっかけとなった1948年ロンドン五輪や1952年ヘルシンキ五輪での韓国選手団の支援に始まり、1964年の東京五輪では、「在日韓国人後援



2015光州ユニバーシアードで優勝した安昌林(右)と崔相英会長



テコンドー男子+80kg級で東京五輪日本代表の江畑(金)秀範



次世代の韓国柔道を背負うホープとして韓国代表で戦う許海実(前列左)と金知秀(前列右)

会」を結成し、韓国選手団の支援だけでなく、本国からの参観団の受け入れ事業なども行った。

この活動がモデルとなり、1986年のソウルアジア競技大会、88年のソウル五輪、1998年の長野冬季五輪、2002FIFAワールドカップ韓日共同開催、2018年の平昌冬季五輪、2021年の東京五輪2020の支援活動につながった。

このほかにも1986年と1990年のアジア冬季競技大会、90年の北京アジア競技大会、1991年の札幌冬季ユニアーシアード、94年の広島アジア競技大会や、1995年の福岡ユニアーシアード、2003年の青森冬季アジア競技大会など、国際的なスポーツ大会が開催されるたびに「後援会」を構成し、大会での韓国選手団



2015カナダ女子W杯に続き、2019フランス女子W杯にも韓国代表として出場した康裕美(前列左から2人目)



2019年2月の柔道グランドスラム・デュッセルドルフ大会66kg級で銀メダルを獲得した金琳煥(左端)



女子ラクロス世界選手権には3人の在日選手が韓国代表として出場し、世界選手権初勝利に貢献した



をサポートし、選手たちの活躍の一翼を担うとともに、日本で開催される国際大会では、日本のスポーツ界との橋渡し役を担ってきた。

2012年5月には、ロンドン五輪でひとつでも多く太極旗が翻る姿を見たいとの期待を込め、文化体育観光部と鎮川の国家代表総合訓練センターを訪問し韓国選手団に激励金を伝達した。

2014年の仁川アジア競技大会、2015年の光州ユニバーシアード、2016年のリオ五輪、2018年のジャカルタアジア競技大会、2021年の東京五輪2020などに出場した在日選手のバックアップも兼ねた支援活動が、韓国代表チーム大きな力となっている。

韓国選手団長にも在日同胞

また、2023年の杭州アジア競技大会では在日3世の崔潤（在日本大韓体育会副会長）が、韓国選手団の団長を務めた。崔潤は大韓ラグビー協会の会長で、東京五輪2020でも韓国選手団の副団長を務めた。

2016年リオ五輪には柔道の安昌林選手が1988ソウル五輪以来、28年ぶりに在日から韓国代表として出場した。安昌林は2018年の世界選手権で優勝、2021年の東京五輪2020で銅メダル獲得といった活躍をした。在日選手としては朴英哲が銅（1976年モントリオール）を獲得して以来、45年ぶりの五輪メダル獲得という活躍に刺激を受け、若い優秀なアスリートが次々と育っている。

1953年の創立以来、様々なスポーツ活動を通して優秀なアスリートを育成し、韓日スポーツ発展に貢献してきた本会は、これからも世界の舞台で戦う選手たちを応援し続ける。

フットサルで全国のオリニ交流

本会がスポーツを通じた次世代の育成・交流の場にと、民団創団60周年を記念して2007年から小・中学生を対象にした「オリニ・フットサル全国大会」を始めた。回を重ねるごとに参加チーム・選手数が拡大した。



2023年の杭州アジア大会で韓国選手団長を務めた崔潤氏

これまで、さまざまなサッカー大会が各地域で開催されていたが、この「フットサル全国大会」によって、東京、大阪、名古屋、京都の韓国系民族学校のサッカーチームが一堂に会する機会が設けられ、全国の在日の子どもたちがサッカーを通じて交流を深める契機となった。

被災地の復興にも貢献

また、2011年からはスポーツの持つ力を活用し、東日本大震災の被災者に夢と希望を持ってもらうことを目的に、被災した子どもたちも、このオリニフットサル全国大会に招待している。

さらには日本のチームも招待しており、幅広い年齢層を対象に各種のスポーツ交流を実施することによって、日本の中で、韓日両国の親善と友好をより一層深め、更には両国のスポーツ振興の一助となる活動に力を注いでいる。

老若男女がスポーツでひとつに

現在、本会では全世代が楽しめるスポーツで同胞交流を図る「ふれあい体育広場」を提唱し、各地方本部と競技団体が中心となって、各地域でサッカーやテニス、卓球、ボウリング、ゴルフ、



在日大韓ボウリング協会では毎年、オリニボウリング教室を開催して、次世代育成に努力している



被災地のオリニで構成した「東日本選抜」チーム（2011年）



在日本大韓体育会の沿革



東日本大震災が起きた2011年の第5回オリニフットサル全国大会には被災地を含む小・中21チームが参加した

テコンドーや運動会など、子どもからお年寄りまで、老若男女が集いながら、幅広くスポーツ民間交流を展開している。

スポーツは、老若男女問わず良質のコミュニケーションをもたらしてくれる。それが、やがては地域コミュニティの絆となり、地域社会にも活力を与えてくれるだろう。

本会は今後もこのような力を持つスポーツを通じて、在日同胞と日本の地域社会における懸け橋となり、みんなが楽しめる韓日交流の実現という社会貢献を続けていく。



冬季スポーツの聖地でもある体育会北海道ではオリニを対象のスキー教室「オリニ・ウインターキャンプ」を開催している



「ふれあい体育広場」の一環として福岡では体育会九州を中心婦人会、青年会が一体となって同胞運動会を開催している



体育会中北では「ふれあい体育広場」の一環として99年から、ボウリング大会を継続としている



体育会関西は結成以来関西韓国人体育大会を開催している



体育会関東では1996年から27年間オリニミニサッカー大会を開催している

在日本大韓体育会の足跡

(1947年~2024年1月)



- 47年 4.12 在日朝鮮体育協会設立。会長に蔡洙仁
- 48年 6.24 ロンドン五輪・韓国選手団を歓迎(横浜港)。64万3500円の募金と運動器具を寄贈
- 49年 10.15 韓国国体(ソウル)に役員3人初参加。蔡洙仁体育協会会長、李仁燮副会長、趙鏞石理事
- 52年 4. ヘルシンキ五輪在日韓国人後援会を組織し、駐日韓国代表部の金溶植公使を始め、全国の在日体育人や役員が東奔西走し集まつた賛助金約1000万円を団服、ガウン、トレーナー、トランクケースなど、競技用衣類と器具装備を韓国選手団に寄贈。蔡洙仁会長は調査研究員・自転車競技監督として韓国選手団と五輪に参加
- 6.12 ヘルシンキ五輪出場韓国選手団を歓迎(東京国際空港)。在日後援会が賛助金1000万円とユニホーム・競技器具寄贈
12. 在日朝鮮体育協会を発展的に解消し、在日本大韓体育会創立に向けた発起人会を結成
- 53年 5. 5 在日本大韓体育会創立総会で初代会長に柳泰夏
- 10.17 本国国体に在日同胞選手団を初派遣(サッカー)。選手・役員25人
- 54年 3. 7 サッカースイスW杯極東地区予選で初の韓日戦。韓国代表の派遣費用を全面支援
- 55年 2.20 本国冬季国体に在日同胞選手団を初派遣。選手・役員20人
- 56年 4.10 第6回定期総会で第2代会長に崔圭夏
8. 5 在日僑胞学生野球団を結成。母国訪問野球団を初派遣
- 7.14 大韓体育会が定期評議委員会で在日本大韓体育会を日本支部に正式認定
- 57年 8. 3 第2次僑胞学生野球団本国訪問
- 58年 3. 8 在日本大韓柔道会創立
- 12.20 第1回在日韓国人体育大会(サッカー)を東京保全高校で開催
- 59年 8.15 光復節・第1回在日韓国人体育大会開催
- 60年 4.16 第8回定期総会で第3代会長に李裕天
- 61年 3.11 第9回定期総会で第4代会長に李允求
- 7.14 体育会関西本部創立(初代会長に李熙健)
- 62年 5.10 体育会中北本部創立(初代会長に崔晃栄)
9. 8 第10回定期総会で第5代会長に辛熙
- 63年 7.11 在日僑胞成人野球団が初の母国訪問派遣
- 64年 4. 7 東京五輪在日韓国人後援会発足。会長に李裕天民団中央団長
- 10.10 東京五輪開幕。7人の在日が韓国代表として出場、柔道で金義泰が韓国柔道初となる銅メダル獲得
- 65年 10. 5 第46回光州国体に初めて100人を超える160人の在日選手団派遣
- 66年 9.30 大韓体育会、鄭建永をKOC委員に(在日初)
- 67年 7.26 第15回定期総会で第6代会長に鄭泰柱
- 8.26 ユニバーシアード東京大会に7人の在日が韓国代表として出場
- 68年 6.30 第10回在日韓国人体育大会を小石川運動場で開催。同胞5000人参加
- 69年 4. 5 第17回定期総会で第7代会長に范眞圭
- 70年 7.16 札幌冬季五輪在日韓国人後援会結成。会長に鄭建永
- 10.14 世界クレー射撃に韓国代表として在日5人が出場

- 10.26 体育会北海道本部創立(初代会長に李俊明)
- 71年 9.20 第19回定期総会で第8代会長に鄭建永
- 9.20 札幌五輪冬季大会在日韓国人後援会結成
- 72年 4. 3 第1回在日韓国人サッカー大会開催
6. 3 体育会九州本部創立(初代会長に金仲浩)
- 8.26 ミュンヘン五輪に在日6人出場。柔道の呉勝立が銀メダル(韓国唯一のメダル)
- 73年 6. 1 韓国少年国体に在日選手団初派遣。選手・役員41人
9. 9 在日韓国人卓球大会開催
- 74年 6.28 在日同胞サッカー選手団が米国遠征、在米同胞代表と親善試合し全勝
9. 1 第7回アジア大会開幕。在日5人が出場し、体操の金国煥と射撃の朴道根が金メダル
- 75年 8.18 在日本大韓体育会事務所を赤坂に移転
10. 3 日本学生氷上競技選手権(インカレ)・フィギュアスケート女子で在日2選手(武山修子、李賢珠)が1、2位を独占(76年も1,2位独占)
- 76年 1.25 第5回全日本室内テニス選手権で在日2世の金胶一が在日で初優勝
- 7.18 モントリオール五輪開幕。在日唯一の朴英哲(柔道)が銅メダル
- 76年 11. 6 民団創団30周年記念全国体育大会(東京駒沢国立競技場)
- 77年 2.11 大韓体育会が蔡洙仁をKOC委員に選出
- 78年 12. 9 第8回アジア大会開幕(バンコク)。在日3人が韓国代表出場し、フェンシングの車律が銀メダル
- 79年 3.24 第13回定期大会で第9代会長に蔡洙仁
11. 3 故朴正熙大統領の国葬に在日選手団58人参列
- 80年 12. 6 体育会関東本部創立(初代会長に崔參鉉)
- 81年 9.30 第84次IOC総会でソウル市が88年五輪開催地に
- 82年 6.11 ソウル五輪・在日韓国人後援会結成
- 9.13 韓日スポーツ交流協定書調印
- 85年 6.16 第19回定期総会で第10代会長に金昌式
- 86年 9. 6 体育会東北本部創立(初代会長に鄭圭泰)
- 9.20 第10回ソウルアジア大会開幕。8人の在日選手が韓国代表で出場しゴルフの金基燮、乗馬の徐仁教が金メダル
- 87年 7.16 体育会中国本部創立(初代会長に禹鐘文)
- 9.20 第1回関東韓国人大運動会、東京で開催
- 88年 6.23 第20回定期総会で第11代会長に金英宰
- 9.17 第24回ソウル五輪開幕。在日4人が韓国代表で出場
- 89年 6.25 在日本大韓野球協会再建総会で会長に韓在愚
- 9.25 世界韓民族体育大会に在日選手団200人派遣
- 90年 7.15 在日同胞蹴球団、中国延辺訪問親善試合
- 9.22 第10回北京アジア大会が開幕。10人の在日選手が韓国代表として出場
- 4.11 第41回世界卓球選手権「コリアチーム」(南北単一チーム)歓迎会。期間中、朝鮮総連と共同応援
- 92年 8.12 第1回サッカーフェスティバル開催
- 10.30 「在日本大韓体育会史」発刊
- 93年 4.19 在日大韓ゴルフ協会創立。会長に崔泳薰
- 4.20 第1回在日韓国人ゴルフ選手権大会



在日本大韓体育会の足跡

(1947年~2024年1月)

- 94年 10. 2 第12回広島アジア大会(～16日)
95年 2.24 テコンドーの五輪正式競技決定で祝賀会参加
96年 5.31 FIFA理事会で2002FIFA W杯の韓日共催決定
7. 1 第26回アトランタ五輪韓国選手団結団式
7.20 体育会関東本部が2002FIFA W杯の韓日共催を記念しオリニミニサッカー大会を開催
97年 4.20 体育会50周年記念、関西韓国人体育大会
98年 6.24 98FIFAフランスW杯・韓日共同応援団結成。在日57人、日本人72人の計129人がフランスで観戦
9.11 在日大韓剣道会創立。会長に孫京翼
99年 5.11 2002FIFA W杯韓日大会「在日韓国人後援会」発足
11. 3 大使杯コリアンサッカーフェスティバル開催
00年 2. 2 ふれあいKJクラブ発足
5.23 第31回定期総会で第11代会長に許寧太
01年 4.15 アジア柔道選手権で在日の秋成勲が韓国代表として出場し優勝
8.26 第1回九州韓国人ボウリング大会開催
02年 5.31 2002FIFA W杯韓日大会開催
7.28 第1回中国地協韓国人ボウリング大会開催
8.11 第1回関東地区韓国人ボウリング大会開催
03年 8.20 在日同胞全国決勝ボウリング大会開催
04年 11.10 2002W杯記念、韓・日・在日社会人サッカー大会
05年 9. 4 韓日友情年2005認定事業「オリニ運動会」開催
06年 4.21 第37回定期総会で第12代会長に朴安淳
07年 3.27 民団60周年・中央団長杯オリニフトサル全国大会(三重県四日市ドーム)
08年 3.25 北海道本部が臨時総会で新会長に千正己
8.22 大韓民国建国60周年記念、韓日親善ゴルフ大会
09年 2.18 第24回ユニバーシアード冬季大会にフィギュアスケートの金彩華が韓国代表として出場
11. 2 第1回駐日大使杯・在日韓国人ゴルフ大会開催
10年 10.12 第91回慶南国体で在日が海外の部4年ぶり優勝
11年 8.20 民団65周年・中央団長杯オリニフトサル全国大会
12年 2.10 在日本大韓体育会60周年記念式典
4.21 第44回定期総会で崔相英を第14代会長に選出
5.24 崔相英執行部が文化体育観光部および大韓体育会訪問。ロンドン五輪への支援金伝達
13年 1.18 スノーボードW杯に在日の具範建が韓国代表で出場し24位
5. 9 崔相英会長が金正幸大韓体育会長と面談し、在日優秀選手の国家代表選抜が決定
14年 9.19 仁川アジア大会に参観団派遣
10.19 在日3世の安昌林が柔道世界ジュニア選手権に韓国代表で出場し優勝
15年 6.19 サッカー女子W杯カナダ大会の韓国代表として在日3世の康裕美が出場し、ベスト16進出
7. 7 光州ユニバーシアード参観団派遣。柔道73kg級で在日3世の安昌林が韓国代表として優勝
16年 6. 8 リオ五輪柔道韓国代表選手日本転地訓練を支援
8. 9 リオ五輪、柔道73kg級に在日3世の安昌林が韓国代表で出場
17年 2.19～26 札幌冬季アジア大会韓国選手団を支援
5.23 平昌五輪会場へ体育会による在日視察団を派遣。組織委員会を激励

- 10.14 柔道世界ジュニア選手権の女子57kg級で韓国代表の在日3世、金知秀が銅メダル獲得
18年 1.31 平昌五輪の成功を願い、民団とともに組織委員会へ2億円の誠金を伝達
8.31 ジャカルタアジア大会に参観団派遣。韓国選手団に激励金伝達
9.23 柔道世界選手権男子73kg級で韓国代表の在日3世、安昌林が優勝
19年 3.31 在日本大韓体育会65周年記念式典および2020東京五輪出場予定選手激励会開催
20年 3.30 新型コロナウイルスのパンデミックにより、IOC臨時理事会で東京五輪・パラリンピック2020を1年後に延期決定
7. 3 第101回韓国国体慶尚北道大会が新型コロナウイルスのパンデミックにより1年後に第102回として延期を決定
21年 7.23～8.8 東京五輪2020の韓国選手団副団長に在日同胞の崔潤氏(本会副会長)。五輪前後の期間中、在日本大韓体育会がボランティアを募り韓国選手団を支援
7.26 東京五輪2020柔道・男子73kg級で在日同胞の安昌林が銅メダル獲得。柔道・女子57kg級の金知秀はベスト16進出で9位
22年 6.3～5 柔道グランドスラム・トビリシ(ジョージア)女子57kg級で在日同胞の許海実が優勝
10.24 柔道グランドスラム・アブダビ(UAE)女子57kg級で在日同胞の許海実が優勝
10.7～13 第103回韓国国体蔚山大会、新型コロナウイルス禍で3年ぶりの全面開催。在日同胞は海外同胞総合準優勝
23年 1.28 柔道グランプリ・ポルトガル2023女子57kg級で在日同胞の許海実が優勝
4.23 柔道グランドスラム・アスタナ2023女子63kg級で在日3世の金知秀が優勝
4.28 柔道アジアオープニングウェート2023女子52kg級で在日同胞の許湖音が優勝
6.23 柔道グランドスラム・ウランバートル2023女子57kg級で在日同胞の許海実が3位
7.29 第31回FISU夏季ワールドユニバーシティゲームズ柔道女子57kg級で在日同胞の許海実が優勝
8.18 柔道グランプリ・ザグレブ2023女子63kg級で在日3世の金知秀が2位、女子52kg級で在日同胞の許湖音が3位
9.10 在日本大韓体育会70周年記念・テコンドー大阪国際オープン選手権
9.23～10.8 杭州アジア大会2022が1年延期して開催。韓国選手団長に在日同胞の崔潤氏(本会副会長)
9.23 杭州アジア大会2022・柔道混合団体戦に在日同胞の許海実が出場
11.10 柔道オセアニアオープン・パース女子57kg級で在日同胞の許海実が優勝、女子63kg級の金知秀が3位
12. 3 柔道グランドスラム・東京に在日同胞の金知秀が女子63kg級で出場
24年 1.26 柔道グランプリ・ポルトガルで在日同胞の許海実が優勝(2連覇)



逆境克服し、つかんだ栄光

韓日狭間の葛藤バネに…ダブルパワー発揮

日本と韓国で活躍した在日同胞スポーツ選手は数知れない。しかし、彼らの栄光は双方の差別の中で悪戦苦闘の末に手にしたものだった。「魂の相克～在日スポーツ英雄列伝」(大島裕史著、講談社)の記述を中心に、在日のアスリートの活躍の一例を紹介する。(文中敬称略)

五輪の柔道でメダルカルテット

京都出身の柔道選手である朴英哲は、小学校の時、在日ゆえに柔道部に入れてもらえば、京都有数の選手であった中学の時は、個人戦のメンバーから外されたこともあった。それでも、京都商業、東洋大学で力をつけ、モントリオール五輪(1976年)の韓国代表選考試合で、あと1つ勝てば五輪出場決定というところまできた。ところがその試合で、朴がいくら相手を倒しても審判は認めず、しまいには、判定負けに。露骨なまでの<在日=日本人>という差別だった。

納得できない朴は、そのまま試合会場の畠の上に座り込んだ。在日本大韓柔道会の李道述会長も猛抗議し、選考試合はやり直



在日韓国人初の五輪メダリストとなった金義泰(1964年東京五輪)



在日本大韓体育会では韓国代表として多くの在日同胞選手を育てた(1972年ミュンヘン五輪銀メダリストの吳勝立=左)

しとなり、朴が代表の座を勝ち取った。選考試合の後、朴は李道述から、「畠から降りていたら、負けやつたぞ」と言われた。まさに、執念で掴んだ代表の座であった。朴はモントリオール五輪で銅メダルを獲得している。

ミュンヘン五輪(1972年)で韓国選手団唯一のメダルとなる銀メダルを獲得した天理大学出身の吳勝立は、決勝戦10分のうち、9分40秒くらいまで、日本の関根忍を圧倒していた。しかし、残りわずかのところで、やや体勢を崩され、微妙な判定の末敗れた。もし勝っていれば、解放後、韓国としては初の金メダルになるところだったが、それでも吳は、やるだけやつた、という思いがあった。

ところが選手団の中には、「お前、日本に住んでいるから、日本に負けてやつたのか」と言う者もいた。それには吳も怒りを抑えきれず、「試合をする人間の気持ちを考えたら、そういう言葉が出てきますか。私は自分なりに精一杯やつたし、国のためにも、



1976年モントリオール五輪柔道で銅メダルを獲得した朴英哲



東京五輪2020で在日選手として45年ぶりに五輪でメダルを獲得した安昌林



一生懸命頑張ったつもりです。誰も負けたくて、負ける人間はありません」と、反論した。

45年ぶり、在日の五輪メダリスト

1960～1970年代は、まだ韓国が貧しかった時代。といって、在日の多くも苦しかった。東京五輪（1964年）で韓国柔道初のメダリストとなる銅メダルを獲得した金義泰は、天理大学を卒業した後、五輪までの半年間、孤独な稽古を続けなければならなかつた。

その間の生活費として、父親が「もうちょっとやりたいけど、幼い子がおるからこれしかない」と言って、10万円を渡した。「当時の10万言ったら、すごいカネなんですよ。涙が出てきた」と、金は振り返る。

こうした苦難の歴史の中で栄光を手にした先人の後を引き継ぎ、2021年の東京五輪で安昌林が銅メダルを獲得した。在日の柔道界には若い人材も出てきており、今後の活躍が期待される。

また祖国の分断は、在日のスポーツマンも苦しめた。東京・荏原（現、日体大荏原）高校野球部出身の裴寿讚は、韓国の実業団でプレーし、国家代表の名外野手として活躍したが、本人は韓国にいるにもかかわらず、両親は北に行ってしまった。そのため、公安当局にマークされ、辛い思いをしたこともあった。

フィギュアスケート強国の一環

キム・ヨナがバンクーバー五輪で金メダルを獲得して以降、国際舞台で韓国のフィギュアスケートの活躍が目立つようになった。しかしあつて韓国は、「フィギュアスケート不毛の地」と呼ばれたこともあった。今日の発展のきっかけになったのは、1973年に当



2010年バンクーバー冬季五輪で金メダルを獲得したキム・ヨナ



キム・ヨナの後継者といわれた劉永（ユ・ヨン）も申惠淑コーチの指導を受けた



2014ソチ五輪でキム・ヨナを指導した申惠淑コーチ（右）

時、在日本大韓体育会の会長であった鄭建永が、韓国の有望選手を日本に留学させたことであった。

そのひとりである申惠淑は、1980年のレークプラシッド五輪に登場した。申は現役引退後、指導者になり、少女時代のキム・ヨナを指導した。2014年のソチ五輪の前にも申がキム・ヨナのコーチになっている。

キム・ヨナと同じ時期、在日3世の金彩華も韓国代表として活躍。ユニバーシアードや冬季アジア大会に出場している。金彩華を指導したのは、関西を中心に多くの人材を育てた濱田美栄である。そして2020年四大陸選手権で2位、2022年の北京五輪で6位になり、キム・ヨナの後継者といわれた劉永も、濱田コーチと申惠淑コーチの指導を受けている。濱田と韓国のフィギュアスケート界は、金彩華をきっかけに関係を深めており、在日が日本と韓国のフィギュアスケートを結び付けている。

プロスポーツ選手が続々登場

日本のプロスポーツ界には古くから多くの在日選手が活躍してきた。

プロ野球では、史上初の完全試合を達成した藤本英雄（李八



龍=巨人、中日)をはじめ、400勝の金田正一(金慶弘=国鉄、巨人)、3085安打の張本勲(張勲=東映、巨人、ロッテ)らレジェンドに続き、阪神の桧山進次郎(黄進煥=阪神)、新井貴浩(朴貴浩=広島、阪神)、横浜の金城龍彦(金龍彦=横浜、巨人)など。

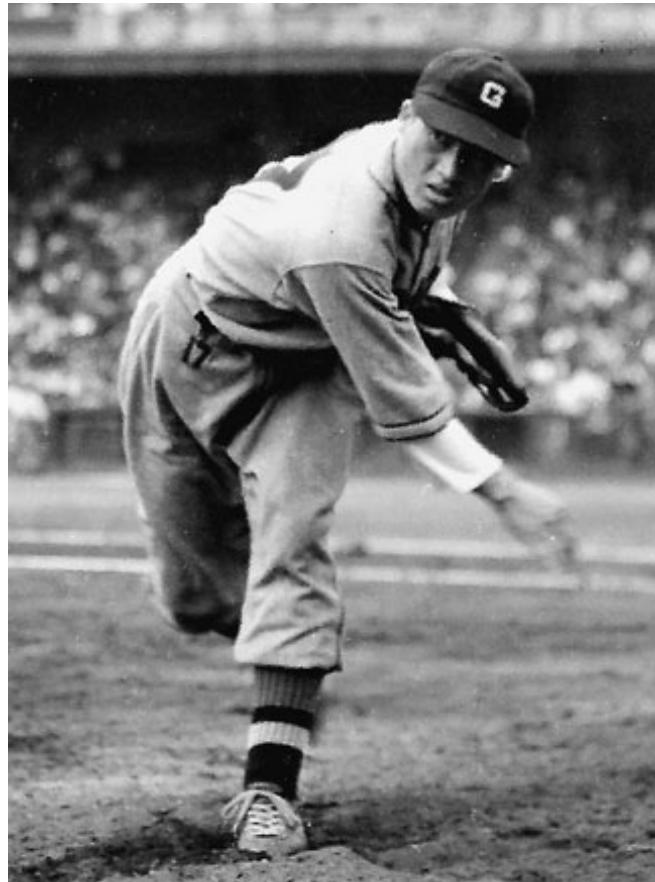
日本の戦後復興期の大衆文化現象となつたプロレスでは力道山(金信洛)を筆頭に、長州力(郭光雄)、前田日明(李日明)、それに総合格闘家の秋山成勲(秋成勲)らがいる。

それに、日本名だから分からぬだけ、実際には、かなりの在日選手がいるのは間違いない。

ゴルフ強国の中盤を築いた在日

その一方で、韓国のスポーツの発展に寄与した選手も多い。

韓国のゴルフは誰もが認める世界最強であるが、その基盤と



日本プロ野球史上初の完全試合を達成した藤本英雄(李八龍)



日本プロ野球唯一の400勝投手の金田正一(金慶弘)

なっているのが、有望選手を国が管理・育成する常備軍制度である。その常備軍が本格的に稼働したのは、1986年のソウル・アジア大会に向けてであった。

自ら選手として、韓国の若い選手を指導したのは、日本アマチュア王者の金本勇(金基燮)である。すぐに「ケンチャナヨ」と言ってズレをする若い選手に、「国代表として行くのだから、それは、絶対にダメだ」と、マナーの大切さから、叩きこんだ。



東映～巨人～ロッテで活躍した張本勲(張勲)は日本プロ野球史上前人未踏の3000本安打を豪快なホームランで飾った=80年、川崎球場での対阪急戦



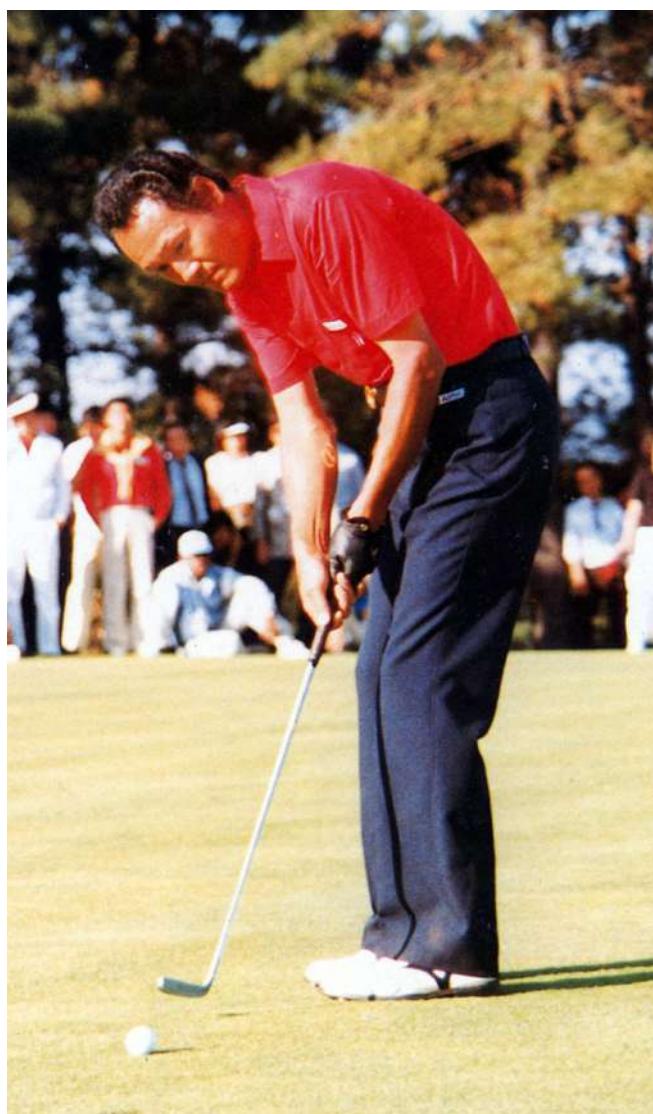
韓国版「甲子園」に出場後、日本のプロ野球で活躍した在日同胞選手は数え切れないほど多い。上=桧山進次郎(黄進煥)、右下=金本知憲(金知憲)、左下=金城龍彦(金龍彦)





日本プロレス界の父、力道山（金信洛=中央）を激励する権逸民団中央団長（右）

アジア大会本番で金本は、最後の最後に痛恨のミスをして、個人戦の優勝を逃したが、団体戦は韓国が金本の活躍で優勝した。「ゴルフは上流階級でやることで、韓国には向かないと、広告が集めにくかったが、金メダルの獲得で、企業に説明しやすくなつた」と、大韓ゴルフ協会の事務局長を長年務めた林栄善は



ゴルフ強国韓国を築いた金本勇（金基燮）=1986年ソウルアジア大会で

語る。

この団体戦の優勝が、その後の躍進の起爆剤になった。

国籍問題に悩み、両国の懸け橋に

在日がオリンピックやアジア大会に出場するには、ルーツである韓国の国籍か、生まれ育った日本の国籍を選択しなければならない。

1976年モントリオール五輪では絶対的なエースアッタッカーとして日本の金メダルに貢献した白井貴子は、尹正順という名の在日韓国人だった。高校を中退し倉紡倉敷に入り、白井省治監督の養女になる形で日本国籍を取得した。

母親は反対したが、「そうしないとオリンピックに出られない」と押し切った。白井は日本バレーの英雄であるが、結婚話など



1976年モントリオール五輪の決勝でソ連を下し胴上げされる白井貴子（尹正順）



秋山成勲（秋成勲）は2001年アジア柔道選手権に韓国代表として出場し優勝した



では、帰化しても韓国人ということで、断られたこともあった。

プロレスの長州力（郭光雄）は専修大時代、同校の監督に勧められ韓国代表の選考試合に出場し、韓国代表として1972年ミュンヘン五輪に出場した。しかし減量に苦労したこともあり、早期に敗退した。

長州力が1972年ミュンヘン五輪で感動したのは、専修大レスリング部の先輩である加藤喜代美が金メダルを獲得したことであり、憤りを感じたのは、在日韓国人の吳勝立が柔道中量級の決勝戦で閔根忍に微妙な判定で敗れたことだった。



長州力（郭光雄）は在日大韓体育会を介して1972年ミュンヘン五輪に韓国代表として出場した



1986年の第62回箱根駅伝で、2位に3分53秒の差をつけて悠々と往路優勝のテープを切る早大・金哲彦

1970年、女子バスケットボールの全日本総合選手権で岩本栄子は、MVPや得点王などタイトルを総なめにした。岩本は趙栄順という名の在日韓国人。日本代表になるため帰化を勧められたが、兄が反対したこともあり断った。

趙栄順は韓国の実業団チームに移り、韓国代表の主将にもなった。趙は、足の小指にヒビが入りシューズを履けなくなると、シューズを破って練習した。その闘志は、韓国の女子バスケットボールに大きな影響を与えた。

箱根駅伝「山登りの木下」伝説

マラソン指導者として知られる金哲彦は、早稲田大在学中の1983～1986年、箱根駅伝で5区を任せられ、「山登りの木下」として名を馳せた。リクルートに就職する際、本名の金哲彦を名乗るようになる。

当時金哲彦は、朝鮮籍だった。早稲田大の恩師・中村清から韓国籍に変えるように言われていたが、断っていた。韓国籍であれば、ソウル五輪に出場していたに違いない。朝鮮籍のままだと、国際大会に出場するのは難しい。

ソウル五輪の後、韓国籍に変え、バルセロナ五輪を目指した。高地トレーニングの場所としてアメリカ・ボルダーを選び、トレーニングを重ねた。しかし、バルセロナ五輪では黄永祚が金メダルを獲得するなど、韓国のレベルは飛躍的に上がっており、金哲彦は代表になれなかつた。

それでも女子マラソンの小出義雄監督に頼まれ、金哲彦が開拓したボルダーで練習の面倒をみた有森裕子が銀メダルを獲得した。これをきっかけに、指導者の道を歩みことになる。

民族名「李」で日本代表に

父親もサッカー選手であった李忠成は、韓国代表を目指し、U19の韓国代表合宿にも参加している。しかしそこで、「在日」としての差別や疎外感に直面する。

そのころ、北京五輪を目指す日本代表の反町康治監督は、李忠成のようなエースストライカーを求めていた。悩みに悩んだ李忠成は、韓国にある先祖の墓参りもして、日本国籍取得の決意を固める。

李忠成という民族名で日本国籍を取得し、北京五輪に続き、11年にカタールでアジアカップでも日本代表に選ばれた。決勝戦のオーストラリア戦。延長後半4分。日本サッカー史に刻まれる決勝のボレーシュートを決め、李忠成はヒーローになった。

国籍問題に苦しんだ在日代表として活躍した李忠成（写真）のアスリートは多い。どの選択が正しいとか、間違つてい



民族名で日本国籍を取得し、日本国籍問題に苦しんだ在日代表として活躍した李忠成（写真）のアスリートは多い。どの選択が正しいとか、間違つてい



るということではない。韓国と日本のスポーツ界は深いところで関係しあっている。彼らが躍動し、充実した競技人生を送ることは、両国のスポーツの発展につながる。同時に彼ら自身が懸け橋として、両国の関係をより深いものにしている。

後方支援も献身目立つ

在日の役割は、選手としてばかりではない。1966年にアメリカで開催されたレスリングの世界選手権で、フリースタイル・フライ級の張昌宣が優勝した。当時の韓国の経済力では、世界選手権に選手を派遣する状況ではなかったが、張が1964年の東京五輪で銀メダルを獲得したことから、派遣が許された。

張昌宣の銀メダルの原動力になったのは、1963年の秋、3ヶ月間東京で行った長期合宿であった。韓国では無敵の張も、特別参加したフライ級・日本代表のセレクションを兼ねた強化合宿では、最初21人中19位だった。それでも3ヶ月後には、順位を4位まで押し上げ、それが銀メダルにつながった。

東京の旅館を長期借り切り

この長期合宿は、在日本大韓体育会の范填圭（後の会長）が文京区の旅館を長期間借り切るなど、在日の全面的なバックアップがあったから可能であった。張昌宣は、「あの時の練習がなければ、今日の私はないでしょう。在日同胞がとても助けてくれました」と、感謝している。

1966年の世界選手権の張昌宣の優勝は、全種目を通じて、解放後初の世界制覇である。この優勝に刺激された梁正模が、10年後の1976年モントリオール五輪で、解放後初の金メダルを獲得し、韓国はスポーツ強国に成長していく。

韓国がスポーツ強国に成長していく過程で、用具の調達など、主にソフトの面で貢献した蔡洙仁、多大な資金援助をした鄭建永をはじめとする、在日本大韓体育会が果たした役割は大きい。

レジェンドを助け、日本に呼んだ男

韓国の女子ゴルフといえば、1998年の全米女子オープンを制するなど、数々のタイトルを獲得した朴セリを思い出すだろう。しかし、韓国女子ゴルフの始祖ともいえる具玉姫の存在も忘れてはならない。1988年に米国女子ツアーで韓国人として初めて優勝し、朴セリに影響を与えた選手でもある。

具は両親を早くに亡くし、生活費を稼ぐために近所のゴルフ



1964年の東京五輪・レスリングフリースタイル・フライ級で銀メダルを獲得した張昌宣

場のキャディになつたことをきっかけにゴルフを始めた。1978年に韓国プロゴルフ協会に女子部ができると、具はトップで合格した。そして日本のいすゞレディースに出場した。といっても具は日本語も分からなければ、知り合いもいなかつた。

そこで具を全面的にサポートしたのが在日の実業家である白萬燮であった。白は早稲田大の自転車部の選手であったが、30代で始めたゴルフで日本のアマチュア大会で上位に入る実力があった。

具玉姫と姜萬守をアシスト

白は具のゴルフクラブが劣悪なのを見て驚き、親交のあった日本ゴルフの伝説・中村寅吉を紹介し、中村のつてで本間ゴルフからクラブの提供を受けた。この時は、決勝ラウンドに進むことができなかつたが、後に日本ツアーで活躍し、米国でも優勝するなど、韓日米で活躍した。

多くの韓国スポーツの英雄が日本でプレーしているが、バレーボールの姜萬守もその一人。高校生の時に韓国代表になり、ミュンヘン五輪に出場し、その後「アジアの巨砲」とも呼ばれた姜が1985年、当時関東学生リーグの2部であった早稲田大に留学したのは驚きだったが、姜は早大に入れたのも白萬燮であった。

白は1967年のユニバーシアード東京大会で早大バレーボール部の古市英とともに、韓国のバレーボールチームの世話をしていた。

1980年代に入り、古市が早大バレーボール部の監督に就任した。2部に低迷するチームを何とかしたいと白に相談し、白が直接交渉して呼んだのが世界的なアッカーマンであった。留学生試験に合格するため、早大近くのマンションに缶詰にして、白ら早大OBが交互に勉強を教えた。

姜は試験に合格し、早大在学は2年であったが、1年目に2部リーグで優勝し、2年目に1部リーグで優勝した。女優の黒田福美が韓国語を学ぶきっかけは姜のファンになったことからであり、姜は元祖韓流スターといった存在であった。



白萬燮氏

2人の韓国スポーツのレジェンドの日本での活躍には、在日の実業家の知られざる貢献があつた。

東京韓国学校出身の白萬燮

は在日大韓体育会の副会長、在

日大韓ゴルフ協会関東本部の会

長なども歴任し、韓国国体に多

くの若手在日ゴルファーを派遣

し、金メダリストを輩出した。



韓日米で活躍した韓国女子ゴルフ界のパイオニア、具玉姫



戦前から朝鮮代表で出場 「甲子園」で活躍した韓国人球児たち

同胞を沸かせた81年夏の決勝戦

1981年の夏は、在日の人たちにとって熱く特別な夏になった。報徳学園と京都商（現京都先端技術大付）が戦った夏の甲子園大会の決勝戦。京都商のスコアボードに「鄭」と「韓」という苗字が掲げられた。試合は1時間38分という短い試合であったが、被安打2の完封で報徳学園に優勝をもたらした金村義明もまた、在日であることを隠さなかった。

この試合、報徳学園は金村のほかにも、高原広秀、岡部道明、それに控えの捕手の松本政輝が在日であり、京都商業は、韓裕、鄭昭相のほかにも、呉本治勇、金原貴義という在日の選手がいた。根強い差別もあり、在日の存在が社会の表に出ることはあまりなかったが、彼らの活躍は、在日の新時代を告げるものであった。



優勝の瞬間、飛び上がり喜ぶ金村義明投手＝81年

	一	二	三	四	五	六	七	八
京都商	鄭	李	木	堀	金	韓	若	雷
	8	6	3	9	7	1	4	2
打順	5	3	2	1	7	8	9	4
報徳	高	谷	畠	齊	原	岡	部	豊

第63回夏の甲子園に在日旋風！決勝戦のスコアボードには、京都商業の鄭、韓、金原、報徳学園の高原、金村、西原、岡部ら同胞の名前が並び、全国の在日同胞を沸かせた



1924年当時の徽文高普野球部

「オールコリアン」の徽文高普

甲子園大会と在日あるいは韓国との関係は深い。戦前の夏の甲子園大会には、日本の支配下にあった朝鮮、台湾、満州からも代表が出場していた。朝鮮からは1921年の第7回大会から出場するようになった。

第7回に釜山商（現釜慶）、第8回、第10回、第12回～14回に京城中、第9回に徽文高普、第11回に釜山中、第15回、第18回、第26回に平壤中（平壤一中）、第16回に大邱商（現商苑）、第17回、第20回に京城商、第19回に善隣商（現善隣インターネット）、第21回に新義州商、第22回、第24、第25回に仁川商（現仁川）、第23回に龍山中が出場している。

そのほとんどが、京城中に代表される日本人が通う学校であったが、唯一の例外が第9回大会に出場した徽文高普だ。当時はまだ鳴尾球場の時代であったが、初戦は大連商を9-4で破り、準々決勝で立命館中に5-7で敗れた。

100年を超える高校野球の歴史の中で、メンバーに日本人がひとりもいないチームで全国大会に出場したのは徽文高普だけだ。

MLB李政厚も徽文高出身

今年、サンフランシスコ・ジャイアンツに入団した李政厚は徽文の出身であり、同校は今も韓国高校球界の強豪である。なお第9回大会の徽文高普の監督であった朴錫胤は東京帝大の出身で後に満州国の官僚になったが、解放後に勃発した1950年の韓国動乱のさなか、平壤で処刑されている。

また商業学校には朝鮮人の子弟も通っており、第16回大会の大邱商は4人の朝鮮人選手がチームの主力になっていた。第16回大会に出場した善隣商は、昭和を代表する作曲家・古賀政男の母校でもある。



野球を通じた韓日の懸け橋

レジェンドに名を連ねる

アジア選手権、韓国初優勝の指揮官

一方、日本国内の学校の出身で、解放後の韓国野球の発展に貢献した選手もいる。1930年代半ば平安中（現龍谷大平安）の内野手として活躍した朴点道は、1963年にソウルで開催された第5回アジア野球選手権の韓国代表監督になり、韓国に初優勝をもたらした。

1940年のセンバツで京都商の準優勝メンバーでもある姜大中は、解放後は韓国代表の内野手として活躍し、指導者としても多くの人材を育てた。

2006年の第1回、2009年の第2回WBC（ワールド・ベースボール・クラシック）で躍進した韓国代表監督の金寅植も姜大中の門下生のひとりだ。1938年のセンバツに横浜商の主将として出場した崔寅哲は、大韓野球協会の会長など要職を歴任し、韓国野球の発展に貢献するとともに、日本との懸け橋の役割を果たした。

また1941年の夏の大会は、全国大会は中止になったが、地方大会は行われた。東京大会の決勝戦は、帝京商（現帝京大高）が京王商（専大附）に14-0と圧勝したが、帝京商には金永祚、京王商には高光籍という韓国人選手がいた。

金永祚は解放後、韓国代表の捕手として活躍した後、韓国代表監督を務めるなど、韓国野球のボス的な存在になった。高光籍は慶南高校の監督を務め、解放後に創設された韓国の高校野球の全国大会で相次いで優勝し、元ソフトバンクの李大浩を輩出するなど、韓国高校球界屈指の強豪である同校の礎を築いた。

祖国の野球発展に貢献した在日球児

戦後しばらくは、韓日の交流は絶たれていたが、交流の糸口となつたのは、1954年に創刊した『韓国日報』が主催し、1956年に始まる「在日僑胞学生野球団」の母国訪問試合であった。

これは主に夏の甲子園大会に出場できなかつた在日の高校球



1963年の第5回アジア野球選手権で初優勝した韓国チーム

児でチームを作り、韓国各地で試合を行つたものだ。各球場とも多くの観客で埋まつたが、在日チームが圧倒的に強かつた。

3回目となる1958年には浪商（現大体大浪商）の張本勲（張勲）も参加している。張本の打力は韓国の人たちに強い印象を残した。張本が東映（現日本ハム）で活躍すると、韓国の野球少年たちは、張本の背番号である10番をつけたがつた。

「野神」となった金星根

1959年には京都・桂高校の金星根が参加している。金星根は卒業後、韓国の実業団でプレーし、韓国代表のエースにもなつた。引退後は指導者として韓国のプロ球団の監督を務めた。選手の育成や戦術眼には定評があり、

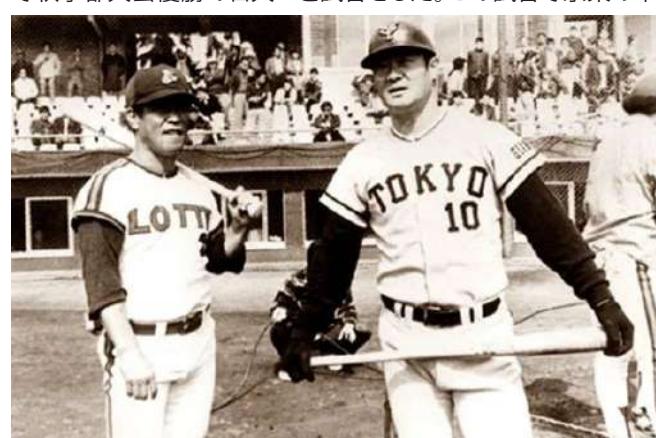
「野神（野球の神様）」と呼ばれた。ロッテ、ソフトバンクといった日本のプロ野球でもコーチを務めている。

在日のチームに勝つために練習したこと、韓国野球のレベルは上がっていた。1960年、ソウルの京東高校は全国大会を相次いで制し、最強のチームになつた。その年の在日チームの母国訪問試合は、在日チームの13勝1敗2分けであったが、1敗と1引き分けは、京東に喫したものだ。

この年、日本との交流を頑なに拒んでいた李承晩政権が崩壊したこともあり、秋に日本遠征が実現した。これが、韓国と日本の野球交流の始まりになった。

強豪、京東高の中心打者、白仁天

九州から始まり山陽、近畿と試合を重ねたが、最後は神宮球場で秋季都大会優勝の日大二と試合をした。この試合で京東の中



張本選手（右）と談笑するロッテ時代の白仁天（左）



韓国版「甲子園」にも出場

母国の舞台で「在日」の意地示す



韓国プロスポーツ史上、最高齢司令塔だった申鎔均氏（写真は2014年、当時74歳でハンファ・イーグルスのブルペンコーチを務めた）

心打者であった白仁天が本塁打を放っている。木製バットだった当時、神宮球場で高校生が本塁打を打つことは、ほとんどなかった。白仁天は2年後に、東映に入団する。これは韓国から日本のプロ球団に入る戦後初のケースになった。

1958年、愛媛の八幡浜高校が夏の全国大会に初出場を果たすが、その立役者となったのがサイドスローの平山鎔均投手だった。平山鎔均の本名は申鎔均で、1963年のアジア野球選手権で韓国代表のエースとなり、日本戦初勝利とともに、韓国に同大会の初優勝をもたらす。

申鎔均も韓国の実業団で活躍した後、韓国のプロ野球でも監督・コーチを務めた。本格的なサイドスローを韓国に持ち込んだのも申鎔均と言われる。ヘテ（現KIA）のコーチ時代に、後にヤクルトでも活躍する林昌勇を育てている。

1960年代末から1970年代の半ばにかけて、甲子園で在日の球児が躍動する。

1968年の第50回の甲子園大会では、1年生左腕・新浦寿夫（金日融）の活躍で静岡商が準優勝する。秋には国民体育大会に出場するはずであったが、当時の国体は外国籍の選手は出場できなかった。

巨人から韓国の三星に移籍し3年間プレーした新浦壽夫（金日融）は3年間で54勝20敗の活躍を見せた

そのため新浦は本人が望まぬ形



巨人から韓国の三星に移籍し3年間プレーした新浦壽夫（金日融）は3年間で54勝20敗の活躍を見せた

そのため新浦は本人が望まぬ形

で在日であることが明るみになった。国籍問題に振り回された新浦であるが、巨人のエースとして活躍。1982年に韓国のプロ野球が誕生すると、民族名の金日融の名で活躍し、三星の優勝に貢献した。年間30勝を挙げた福士敬章（張明夫）とともに韓国プロ野球を代表する在日同胞選手になった。

1970年の夏の甲子園大会で準優勝したPL学園の中心打者である新井宏昌（朴鐘律）、1972年のセンバツの優勝投手である日大桜丘の「ジャンボ仲根」こと仲根正広（崔炳官）、この年の夏の甲子園大会で中京（現中京大中京）をベスト8に導いた1年生のサイドスロー投手の金本誠吉（金誠吉）、1973年のセンバツの優勝投手である横浜の永川英植なども代表的な在日の選手である。

金本は阪急（現オリックス）を経て、三星など、韓国のプロ野球に7年在籍し、韓国で54勝を挙げた。韓国のプロ野球のレベルが上がるにつれて、在日の選手もなかなか活躍できなくなるが、金本は投手で成功した最後のケースになった。

在日選抜チーム、準優勝3回

一方、在日学生野球団の母国訪問試合であるが、主催の『韓国日報』が1971年に「鳳凰大旗全国高校野球大会」を始めると、在日チームもその大会に参加した。

この大会は、韓国の全ての高校野球チーム（約50校）が予選なしで出場する大会だ。在日チームは優勝こそないが、準優勝は3



1994年鳳凰大旗大会時の在日チーム



1994年鳳凰大旗大会で在日チームの中心打者だった金城龍彦



甲子園に韓国語の校歌

同胞ら、「誇らしい」「涙が止まらない」



在日同胞チームの宿舎は在日同胞が経営するソウルの「ニュー国際ホテル」。歓迎の横断幕が張られた

回ある。1回目は1974年で、金本誠吉（金誠吉）らを擁するチームだった。2回目は1982年で、和歌山の箕島高校の選手がチームの中心を担った。3回目は1984年で、中日などで活躍する捕手の中村武志（姜武志）が攻守に活躍した。中村は後に、韓国プロ野球のKIAでバッテリーコーチを務めたこともある。

投打二刀流の金城龍彦

ベスト8に進んだ1994年の在日チームでは、横浜などの外野手で首位打者にもなる金城龍彦（金龍彦）が投打二刀流の活躍をした。そのほか、元阪神の桧山進次郎（黄進煥）や、東京五輪2020などで韓国代表の投手コーチを務めた崔一彦（山本一彦）らも鳳凰大旗大会に出場している。在日チームの母国訪問試合は1997年まで続いた。

母国訪問後も、在日の選手が甲子園で活躍している。

現在日本ハムのコーチである森本稀哲（李稀哲）は、1998年の夏に帝京の主将で遊撃手として甲子園大会で活躍した。

「ひちりり」という呼び名で分かるように、韓国にルーツがあることを公表している。実家は在日が多く住む日暮里で焼き肉店を経営していた。

2010年の夏に早稲田実業の外野手として甲子園大会に出場した安田権守（安權守）は、2019年にドラフトで指名されて韓国プロ野球の斗山に入団した。

安田はその後、韓国のロッテに移籍し、昨年引退したが、準レ



1999年7月の夏の甲子園京都府大会予選初出場の京都国際高校（当時は京都韓国学校）

ギュラーで活躍した。2008年の夏には釜山からの留学生・金東民が飯塚の遊撃手として甲子園大会に出場している。

強豪校に成長した京都国際

1999年には、京都韓国学園が外国人学校として初めて日本高校野球連盟の硬式の部に加盟した。最初は弱小チームであったが、2001年に済州島からの留学生、荒木治丞（ファンモク・チソン）が入学する頃からチーム力が上がり、2003年の夏は平安に敗れたものの京都大会の準々決勝に進出した。

この年、京都国際と改称し、一条校になった。2008年にはソウルからの留学生・申成鉉の活躍もあり、春季近畿大会に出場する。

申成鉉は広島にドラフト指名され、同校初のプロ野球選手になる。申成鉉は広島では芽が出なかったが、ハンファ、斗山といった韓国のプロ球団で活躍した。

2008年の近畿大会出場と申成鉉の広島入団がきっかけとなり、京都国際に選手が集まるようになった。

2021年のセンバツに初出場を果たし、同年夏の甲子園大会では準決勝に進出した。部員の大半は日本人であるが、韓国語の校歌が甲子園球場に響き渡った。同年夏の甲子園ではベスト4進出という快進撃を見せた。

テレビで観戦した同胞は、SNS等を通じて、全国に鳴り響いた韓国語の校歌に「誇らしい」「涙が止まらない」との発信が相次いだ。韓国メディアでも「韓国語の校歌、日本全国に流れる」「韓国系京都国際高校、夢の舞台・夏の甲子園にも進出」「京都国際高校、甲子園で韓国系初のベスト4」など、同校の甲子園での快進撃を連日伝えた。

在日の選手の多くは日本名で活動しているため、実態は正確には分からない。しかし彼らが高校野球の歴史に重要な位置を占めていることは確かだ。



連続の甲子園出場を決め、強豪校となった京都国際高校



幼児と青少年300余人出場

本会70周年記念 テコンドー国際オープン大会



韓国国技院からの招待含め、子どもから学生まで300人余りが出場した2023テコンドー大阪オープン国際大会

在日本大韓体育会（崔相英会長）では2023年9月10日、大阪府門真市の「ラクタブドーム」サブマリーナで創立70周年を記念した「2023年テコンドー大阪オープン国際選手権」を開催した。

在日本大韓テコンドー協会（高俊光会長）が主管し、韓国のお外同胞庁をはじめ、大韓体育会、国技院、駐大阪韓国文化院と民団近畿地方協議会、日本側から大阪府、門真市、日本スポーツ協会、全日本テコンドー協会などが後援した。

競技は「プムセ」（型）と「キヨルギ」（組み手）の2種目を競い、各地のテコンドー道場や大阪金剛学園など学校クラブをはじめ、韓国国技院の協力を得て、韓国から招いた示範チームも含め、幼児から中・高校生まで、次世代選手ら300人余りが出場した。

開会式で崔相英会長（朴相泓専務理事代読）は「本会70周年の歩みを振り返ると、多くの優秀な在日同胞選手を輩出し、韓国や日本のスポーツ発展にも貢献してきた」としながら、「テコンドーは200カ国以上8000万人の競技人口を誇る世界的な武芸。練習の成果を発揮し、テコンドーを通じて友情と地域社会での韓日親善の輪を広げてほしい」と選手たちを激励した。

このほか、日本テコンドー協会の川原貴会長、大阪府の吉村洋文知事、門真市の宮本一孝市長らも激励のメッセージを寄せた。



力強く宣誓する選手代表



選手たちを激励する李元徹民団大阪本部団長



試合を見守る民団と在日本大韓体育会役員ら



韓国から招いたテコンドー示範団による演武



アクロバットの演武を見せる示範団



果敢に足技を出し合う試合が相次いだ



子どもたちも闘志あふれる戦いを見せた



表彰式で選手たちと記念撮影する朴相泓在日本大韓体育会専務理事と高俊光在日本大韓テコンドー協会会长



素早い足技の攻め合いが連発した



1952年12月、韓国サッカーチームと在日体育人との懇親会（展望閣）。この2年後にスイスW杯出場権をかけ、初の韓日戦が実現した



在日同胞選手団初参加となった1953年10月の第34回韓国国体への歓送会



在日同胞選手団の韓国国体初参加はサッカーの単独チームだった



在日同胞選手団が初参加した第34回韓国国体の開会式で挨拶を述べる李承晩大統領（1953年）

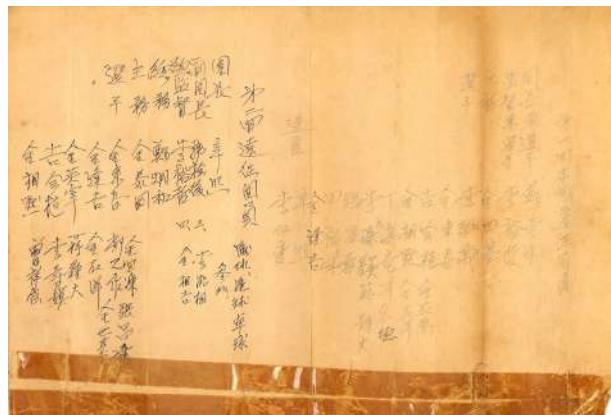


初参加の韓国国体当時のプラカードには「在日僑胞体育会」と記されていた。





1957年7月、ヘルシンキ五輪出発を前に日本に立ち寄った韓国代表選手団の激励会（東京韓国YMCA）



在日同胞選手団2度目の出場となった1954年の第35回韓国国体では入場行進の部で優勝、表彰状の裏には当時の選手団全員の名前が記されている



1956年4月、在日卓球選手団が首相官邸を訪問し鳩山総理と歓談した



1960年8月、在日韓国学生同盟が構成した在日学生祖国遠征体育団の結団式を終え、民団中央本部前で記念撮影（東京都文京区春日町）



1960年10月15日、第41回韓国国体に参加した在日同胞サッカーチーム（大田市の儒城温泉で）



3回在日韓国人体育 42回秋季国体参加選手選抜

主催 在日本大韓体育会 委員 大韓民国駐日代表部・在日本大韓民国居留民団 調査 在日本韓国人全



1961年国体代表選手選抜大会を兼ねた第3回韓国人体育大会（サッカー会場）



1961年の国体代表選手選抜サッカー試合を前に
(左が金英宰元在日本大韓体育会会长)



1961年の第3回在日韓国人体育大会の野球会場



第43回韓国国体開会式で入場行進する在日同胞選手団
(1962年10月24日、先頭は蔡洙仁総監督)



1964年、東京五輪を前に金澤寿大韓体育会会长（後列左から3人目）が天理大学柔道部を訪問し金義泰（前列右）ら在日同胞選手を激励



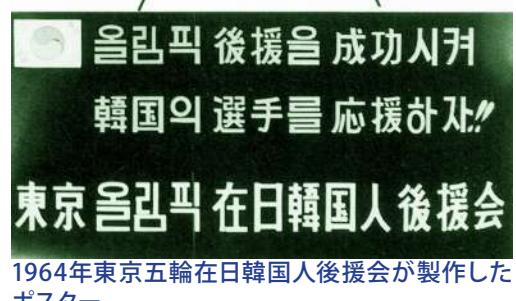
1961年、プロ野球デビュー3年目にして首位打者 (.336) に輝いた張勲選手に記念トロフィーを渡す力道山



1964年東京五輪の選手村で金義泰選手（左）



1964年東京五輪開幕を前に在日韓国人後援会が開いた韓国代表選手団歓迎・激励会 (1964年10月8日、日比谷公会堂)



1964年東京五輪在日韓国人後援会が製作したポスター



1964年東京五輪の開会式で手を振って入場行進する韓国代表選手団 (柔道、射撃、体操、サッカーなど在日同胞選手も韓国代表として各種目で多数出場した)



1964年東京五輪の射撃韓国代表として在日同胞の朴三圭選手



1964東京五輪でサッカー韓国代表として出場した在日同胞の李錫儀選手



1964年東京五輪の体操韓国代表 (後列右端が在日同胞鄭利光、前列左端が姜寿一選手)



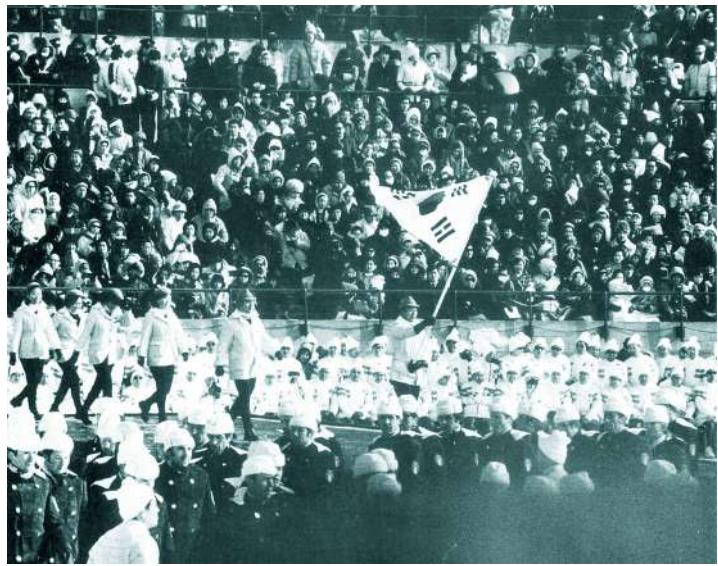
1965年冬季韓国国体のスキーでメダル量産した金和男(前列左)と朴久男選手(前列右)



全国高校ホッケー選手権で3連覇(1954~1956年)した建国高校ホッケー部は韓国から特別招待され記念大会に臨んだ



金17個を含む歴代最多となる29個のメダルを獲得した2013年仁川国体で優勝杯を高々と掲げる鄭進在日同胞選手団長。鄭進氏は1999年仁川大会、2003年全北大会と3度に渡って在日同胞選手団長を務め、いずれも総合優勝を果たした



1972年の札幌冬季五輪でも在日韓国人後援会を構成し韓国選手団を応援した(写真は開会式で入場行進する韓国代表選手団)



札幌に竣工されたばかりの民団北海道本部会館で1972年札幌冬季五輪・在日韓国人後援会の結成式が行われた



2010年の慶南国体で4年ぶりに総合優勝を奪還した金昭夫選手団長。2005年の蔚山大会でも優勝している



ポイント制からメダル制に変わった2012年大邱国体では千柄勝在日同胞選手団長が選手強化に注力し見事総合優勝を奪還した



韓国国体 在日同胞選手団の記録

参加回数	国体回数	開催期間	開催都市	選手団長	総監督	獲得メダル数 金 銀 銅	計	順位	参加人数
1	30	1949.10.15~10.20	ソウル	蔡洙仁(東京)					3
2	34	1953.10.17~10.22	ソウル	鄭龍洙(東京)	金東春				25
3	35	1954.10.19~10.25	ソウル	金相吉(東京)	李仁燮				34
4	36	1955.10.15~10.21	ソウル	李能相(東京)	金莊煥				77
5	37	1956.10.03~10.09	ソウル	李能相(東京)	金東春			11位	132
6	38	1957.10.18~10.24	釜山	不明					
7	39	1958.10.03~10.09	ソウル	不明					
8	40	1959.10.03~10.09	ソウル	辛熙(東京)	李允求			10位	131
9	41	1960.10.10~10.16	大田	李裕天(東京)	金安守	2 1 0 3	10位	123	
10	42	1961.10.11~10.15	ソウル	李允求(東京)	李錫儀	3 0 0 3	10位	96	
11	43	1962.10.24~10.29	大邱	鄭建永(東京)	蔡洙仁	3 0 0 3	10位	142	
12	44	1963.10.04~10.09	全州	金己哲(東京)	裴玉鉉	8 0 0 8	11位	173	
13	45	1964.09.03~09.08	仁川	金普根(大阪)	李道述	1 0 1 2	12位	62	
14	46	1965.10.05~10.10	光州	張基洙(東京)	金致淳	4 0 0 4	11位	160	
15	47	1966.10.10~10.15	ソウル	鄭泰柱(福岡)	李奉男	2 0 0 2	11位	168	
16	48	1967.10.05~10.10	ソウル	鄭泰柱(福岡)	金昌式	7 3 4 14	11位	142	
17	49	1968.09.12~09.17	ソウル	姜佑佑(大阪)	曹祥鉉	3 2 2 7	12位	126	
18	50	1969.10.28~11.02	ソウル	范填圭(東京)	金英宰	5 2 1 8	11位	108	
19	51	1970.10.06~10.11	ソウル	范填圭(東京)	柳乙祚	1 3 4 8	10位	112	
20	52	1971.10.08~10.13	ソウル	金振浩(大阪)	孫嬉宇	4 5 2 11	12位	114	
21	53	1972.10.06~10.11	ソウル	李俊明(北海道)	金致淳	3 6 2 11	11位	184	
22	54	1973.10.12~10.17	釜山	朴源邦(東京)	安在成	4 5 8 17	11位	237	
23	55	1974.10.08~10.13	ソウル	姜炳浚(大阪)	金性玉	5 3 4 12	11位	206	
24	56	1975.10.07~10.12	大邱	蔡洙仁(東京)	丁海龍	2 1 5 8	11位	287	
25	57	1976.10.12~10.17	釜山	朴鍾(山口)	全康夫	7 2 1 10	12位	157	
26	58	1977.10.10~10.15	光州	朴成準(神奈川)	金仙吉	0 4 5 9	12位	102	
27	59	1978.10.12~10.17	仁川	金仲浩(福岡)	丁海遊	0 1 2 3	12位	175	
28	60	1979.10.12~10.17	大田	徐興讚(福岡)	洪性仁	1 4 4 9	12位	167	
29	61	1980.10.08~10.13	全州	金琮斗(北海道)	池宗淵	0 0 3 3	14位	142	
30	62	1981.10.10~10.15	ソウル	金仁鶴(北海道)	金聖大	1 2 3 6	11位	156	
31	63	1982.10.14~10.19	馬山	許允道(東京)	洪武壬	2 4 1 7		176	
32	64	1983.10.06~10.11	仁川	尹達鏞(東京)	金壽男	0 3 4 7		162	
33	65	1984.10.11~10.16	大邱	崔漢洛(愛知)	金南守	1 0 1 2		176	
34	66	1985.10.10~10.15	春川	柳雲行(山梨)	金辰圭	0 7 4 11		173	
35	67	1986.06.20~06.25	ソウル・釜山・京畿道	朴鍾(山口)	姜壽一	7 6 4 17		174	
36	68	1987.10.13~10.18	光州・全南	張斗會(大阪)	高錫棋	6 3 2 11	1位	185	
37	69	1988.05.07~05.28	ソウル等分散	金昌式(東京)	高澤均	11 2 1 14		93	
38	70	1989.09.26~10.01	水原・安養・烏山	金在學(愛知)	金順寶	5 3 3 11	1位	135	
39	71	1990.10.15~10.21	忠北	朴正準(大阪)	宋武夫	2 2 1 5	1位	142	
40	72	1991.10.07~10.13	全北	金時顯(大阪)	金順英	8 4 5 17	2位	166	
41	73	1992.10.10~10.16	大邱	金仁鶴(北海道)	黃石道	2 2 3 7	2位	147	
42	74	1993.10.11~10.17	光州	金在學(愛知)	宋基泰	8 3 7 18	1位	134	
43	75	1994.10.27~11.02	大田	金英宰(大阪)	金奉坤	8 3 5 16	1位	130	
44	76	1995.10.02~10.08	慶北	金在學(愛知)	金文化	5 6 7 18	2位	115	
45	77	1996.10.07~10.13	江原道	権甲植(大阪)	鄭利光	6 4 1 11	2位	125	
46	78	1997.10.08~10.14	慶南	崔萬斗(大阪)	河文洙	6 4 1 11	2位	143	
47	79	1998.09.25~10.01	濟州	康忠男(大阪)	文京一	3 6 3 12	1位	177	
48	80	1999.10.11~10.18	仁川	鄭進(長野)	金七福	2 6 3 11	1位	119	
49	81	2000.10.12~10.18	釜山	金海経(奈良)	安有恒	7 8 5 20	1位	175	
50	82	2001.10.10~10.16	忠南	盧光善(大阪)	金順英	6 3 7 16	1位	125	
51	83	2002.11.09~11.15	濟州道	金洪斤(神奈川)	金一波	3 5 6 14	2位	150	
52	84	2003.10.10~10.16	全北	鄭進(長野)	姜玄哲	2 0 8 10	1位	176	
53	85	2004.10.08~10.14	忠北	朴安淳(東京)	李鍾官	9 2 2 13	1位	171	
54	86	2005.10.14~10.20	蔚山	金昭夫(東京)	韓龍化	5 3 2 10	1位	235	
55	87	2006.10.17~10.23	慶北	南照男(東京)	金泰珍	11 7 5 23	1位	216	
56	88	2007.10.08~10.14	光州	金順英(大阪)	趙靖芳	3 5 8 16	3位	205	
57	89	2008.10.10~10.16	全南	羅基祖(東京)	姜玄哲	6 2 10 18	2位	151	
58	90	2009.10.18~10.26	大田	柳箕桓(東京)	金泰珍	6 2 4 12	3位	177	
59	91	2010.10.06~10.12	晋州	金昭夫(東京)	韓龍化	8 3 6 17	1位	251	
60	92	2011.10.06~10.12	京畿道	金漢淳(大阪)	金一波	8 3 6 17	2位	151	
61	93	2012.10.11~10.18	大邱	千柄勝(東京)	李壽源	13 5 4 22	1位	189	
62	94	2013.10.18~10.24	仁川	鄭進(長野)	南圭吉	17 6 6 29	1位	170	
63	95	2014.10.28~11.03	濟州道	金炳鍾(大阪)	梁英守	14 5 5 24	1位	220	
64	96	2015.10.16~10.22	江原道	朴平造(北海道)	千正己	10 4 6 20	1位	130	
65	97	2016.10.07~10.13	忠南	李光復(宮城)	尹源一	12 4 4 20	1位	125	
66	98	2017.10.20~10.26	忠北	權五雄(滋賀)	權五仁	7 4 6 17	1位	153	
67	99	2018.10.10~10.18	全北	千憲司(東京)	成正幸	11 8 4 23	1位	147	
68	100	2019.10.04~10.10	ソウル	吳公太(長野)	許孟道	5 6 12 23	3位	132	
69	103	2022.10.07~10.13	蔚山	孫栄泰(東京)	金利中	7 6 6 19	2位	128	
70	104	2023.10.13~10.19	全南	姜英之(東京)	李圭亮	9 2 9 20	2位	129	

*第62回大会までは国内総合順位、第63~67回大会は順位対象外、第68回大会から
「海外同胞の部総合表彰」導入。第69回大会はソウル五輪開催年のため順位はなし。
38、39回大会は記録がないが参加している。第101回慶北大会は新型コロナウイルス
感染拡大のため延期(回数のみカウント)、第102回慶北大会は19歳以下のみ開催、大学・一般・海外同胞の部は中止。

参加回数
70回 金 327 銀 205 銅 238 計 770 参加累計
9319人



「韓国代表で五輪に出なさい」

祖母との約束、必ず果たす…許海実・許湖音



韓国女子柔道界のホープとなった許海実、許湖音姉妹

世界最強の日本に勝って太極旗を

在日同胞柔道選手の姉妹、許海実（ホ・ミミ=21）、許湖音（ホ・ミオ=19）は、韓国代表としてオリンピック出場を目標に練習に励んでいる。父親は韓国国籍、母親は日本国籍、祖父母は韓国国籍の許姉妹は今、韓国女子柔道界のホープとして注目を浴びている。その橋渡しを担ってきた在日本大韓体育会の役割が大きい。

姉の許海実は高校1年生だった2018年に、在日本大韓体育会の薦めで韓国国体ソウル大会に初出場。圧倒的な強さで堂々の優勝を飾った。妹の許湖音は高校3年の時、新型コロナウイルスのため事実上の中止となっていた韓国国体が3年ぶりに復活した2022年10月の蔚山大会に初出場し、初優勝を飾った。

許姉妹は、2021年に亡くなった祖母との約束を果たすため、韓国に渡った。

生前、祖母は「2人の孫娘が必ず韓国代表になってオリンピッ



ジョージアで開催された2022年グランドスラム・トビリシ大会で強豪を破り、世界の頂点に立った許海実（当時19歳）

クに出場することを願う」と遺言を残した。

この祖母の遺言を叶えるために、二重国籍だった許海実は日本国籍を放棄して、2022年に慶尚北道体育会・柔道チームに入部した。妹の許湖音も翌年、姉に続いて同じチームに入部した。

許姉妹は「最初は慣れなかったが、今は生まれ育った日本よりも韓国の方が馴染んでいる。韓国人の血が流れている証拠」と笑顔を見せている。

韓国女子柔道界に 彗星のごとく登場

姉の許海実は、低迷する韓国女子柔道界に、彗星のごとく登場した有望株だ。

2022年2月、国家代表選抜戦57kg級で韓国国家代表となり、わずか2年で国際大会を数多く制した。

まず6月、トビリシ（ジョージア）・グランドスラムで、リオ五輪金メダリストの世界ランキング3位のラファエラ・シウバ（ブラジル）に準々決勝で破り、続く準決勝で、同7位のエテリ・リハルテリアーニ（ジョージア）を破り、初の国際大会で金メダルを獲得した。

10月のアブダビ（UAE）・グランドスラムでは、東京五輪金メダリストのノラ・ザコバ（コソボ）を破って優勝、さらに2023年1月のポルトガル・グランプリでは、再びシウバを破り頂点に立った。2024年1月のポルトガル・グランプリでは2連覇を果たした。

2022年6月まで無名の選手だった彼女が、歴代五輪金メダリストなど強豪を退け、一気に世界ランキング上位に登りつめ、2024年3月現在、世界ランキング4位を誇示している。

韓国柔道界では「明日、五輪が開催されれば、許海実は男女をあわせ、もっとも金メダルに近い選手」と大きな期待を寄せている。

許海実は2002年、許湖音は2004年東京生まれ。元柔道選手の父親の指導のもと、幼い頃から柔道をはじめた。姉妹ともにフィジカルの強さと運動能力で、早い時期から頭角を現わした。

許海実は、中学校3年生の時に1000人以上（本選、地域予選を



2023年1月、グランプリ・ポルトガルで優勝した許海実（左から2人目）



2023年柔道グランプリ・ザグレブで銅メダルを獲得した許湖音



2022年の韓国国体初出場で金メダルを獲得した許湖音

含む)出場した全日本中学校柔道選手権大会で優勝。

日本の女子柔道は、2020東京五輪・女子柔道7階級のうち4階級で金メダル(52、70、78、78超kg)を席巻した最強国。彼女は高校生の時も、全国でトップ3に入る有望株だった。

妹の許湖音も2023年当時、日本高校生ランキング1位の有望株だった。高1の時に出場した2021年日本高校選手権大会で優勝し、日本の柔道界では「天才が現れた」と評判になった。

この評判を聞きつけた李詰雨・慶尚北道知事は、許姉妹を慶北体育会にスカウトするため、東奔西走し全面的なバックアップを約束し、慶北体育会所属に結びつけた。

独立運動家、許碩氏の子孫

許姉妹は、独立運動家の許碩氏(1857~1920年)の子孫でもある。独立運動家の許碩は、1918年に慶尚北道で反日檄文を配布した罪で日本の警察に逮捕され投獄された。1991年には建国勳章「愛国章」が授与された。慶北軍威郡に殉国記念碑がある。

許海実は、「自分が独立運動家の子孫だということを知り、太極旗に対して、一層誇りを感じるようになった」と話している。

妹の許湖音は、「小・中・高は日本の学校に通っていたので、韓国の歴史はよく知らなかつたけど、最近、韓国の歴史を勉強し3.1



祖先である独立運動家、許碩義士の殉国紀蹟碑前で

独立運動を知った。日本の友だちが恐れる韓国女子柔道界のエースになりたい。韓日の懸け橋となるスポーツ選手に成長したい」と意気込みを見せている。

祖先に五輪メダル獲得を誓う

許姉妹は似ているところが多い。二人とも「勉強が得意な柔道選手」として名を馳せた。日本体育大学、明治大学など柔道強豪校の勧誘を断り、早稲田大学に奨学生として入学したのも共通点。

許姉妹は、お互いに恋愛話もするほど仲が良い。妹の許湖音は、「私は姉に恋愛話や体調など、すべてを打ち明ける。韓国に行く決心がついたのも姉を信じているから」と話すと、姉の許海実は「私たちちは友人でありライバル。妹の卓越した実力は私をやる気にさせる」と意気込みを見せた。

韓国女子柔道界は長い間低迷し、1996年のアトランタ五輪以来、金メダルから遠ざかっている。許海実は、祖先であるハラボジの殉国紀蹟碑を訪れ「パリ五輪でメダルをめざす」と誓った。



仲の良い許姉妹が韓国女子柔道界を背負っていく



許海実・金知秀を直に指導へ

安昌林が慶尚北道体育会入り



慶尚北道体育会の入団式で手をつないでファイティングポーズをする安昌林（左）と金ジョンファン慶尚北道体育会会長

東京五輪男子柔道73kg級銅メダリストで、在日韓国人3世の安昌林（30）が2021年12月に引退したが、慶尚北道体育会柔道チームで本格的な指導者の道を歩んでいる。

安昌林は2023年3月6日に、慶尚北道体育会とプレイングコーチ契約を結んだ。

日本東京生まれの安昌林はこの10年間、韓国男子柔道のエースとして活躍した。日本柔道界からの帰化勧誘を断つて2014年から太極マーク（韓国代表）をつけた彼は、2018年世界選手権男子73kg級で金メダルを獲得し、世界トップに立った。東京五輪2020では銅メダルを獲得した。

「五輪金メダリスト育てる」

本格的な指導者生活を始めた安昌林の目標は、自分に代わって夢を叶える五輪金メダリストを育てることだ。

当初、彼は複数のチームからラブコールを受けたが、慶尚北道体育会の金ジョンファン監督の積極的なオファーに感動し、慶尚北道体育会に入団した。



東京五輪2020で銅メダルを獲得した安昌林。この10年間、韓国柔道の看板選手だった

会行きを決めた。

これによって安昌林は慶尚北道体育会・柔道部に所属している韓国女子柔道エース、許海実（57kg級）、許湖音（52kg級）姉妹と金知秀（63kg級）の3人の在日同胞選手を指導することになった。

許海実は2022年、慶北体育会に入団し、韓国地を踏んだが、わずか1年で女子代表チームのエースに躍り出た。妹の許湖音はその翌年、2023年から慶北体育会に入部した。東京五輪に出場した金知秀も同じチームに所属しており、まだ韓国語が苦手な彼女にとって、安昌林は実兄のようなコーチの役割を果たすことになる。

「技術と経験すべて伝授する」

慶北体育会の金ジョンファン会長は「世界に韓国柔道の地位を高めた安昌林選手が慶北体育会に入団できて嬉しい。慶北体育会柔道チームはさらに成長するものと期待している。これから金ジョンファン監督、選手たちと渾然一体になって最善の努力を尽くして良い成績を収めることを願う」と話した。

安昌林は「在日韓国人として太極マークをつけてプレーした8年間は、私の人生で最も輝いて貴重な経験でした。国家代表は引退しましたが、今はコーチとして後輩たちがオリンピックで金メダルを取れるよう精一杯後押ししようと思います」と第2の柔道人生を熱く語った。

「許海実・許湖音姉妹と金知秀を見ると、10年前の自身の姿が見える。必ずパリ五輪に導く。私が持っている技術と経験をすべて伝授する」と述べた。

慶尚北道体育会には許海実・許湖音姉妹のほか、同じ在日同胞3世の金知秀（女子63kg級）が所属する。この在日女子柔道トリオが活躍する姿に在日同胞社会でも大きな夢が膨らむ。



2023年11月の国家代表選抜を兼ねた会長旗全国柔道大会で優勝した許海実（中央）、金知秀（右から2人目）を囲んで記念撮影をする安昌林コーチ（右端）



パリ五輪めざし

在日女子柔道に期待

金知秀、許海実の慶北コンビ



許海実 (ホ・ミミ)

生年月日：2002年12月19日（東京都江戸川区）
所 属：慶北体育会（韓国女子57kg級代表）
体 格：159cm、57kg級
学 校：早稲田大学スポーツ科学部3年
得 意 技：背負投、抑込技
主な戦績：2017全日本中学校柔道大会優勝（52kg級）
57kg級 2019アジアジュニア選手権3位
2022グランドスラム・トビリシ優勝
2022世界選手権5位
2022グランドスラム・アブダビ優勝
2022グランドスラム・東京5位
2022ワールドマスターズ3位
2023グランプリ・ポルトガル優勝
2023グランドスラム・ウランバートル3位
2023ワールドユニアーリティ優勝
2023杭州アジア大会混合団体戦5位
2023オセアニアオープン・パース優勝
2024グランプリ・ポルトガル優勝
世界ランキング4位（2024年3月6日現在）



金知秀 (キム・ジス)

生年月日：2000年12月12日（兵庫県姫路市）
所 属：慶北体育会（韓国女子63kg級代表）
体 格：162cm、63kg級
学 校：山梨学院大学卒
得 意 技：背負投
主な戦績：2011全国小学生学年別柔道大会優勝（40kg級）
48kg級 2014全日本中学校柔道大会3位
2016インターハイ個人戦優勝
2016エクサンプロヴァンスジュニア国際3位
57kg級 2017アジアジュニア選手権優勝（57kg級）
2017世界ジュニア選手権3位
2018全日本高校選手権個人戦優勝、団体戦優勝
2018グランドスラム・パリ3位
2018インターハイ個人戦3位、団体戦優勝
2019グランドスラム・パリ3位
2019世界ジュニア選手権3位
2019ユニアシード個人戦3位、団体戦3位
2021アジア選手権2位
2021東京五輪個人戦9位
2023グランドスラム・アスタナ優勝
2023グランプリ・ザグレブ2位
2023オセアニアオープン・パース3位
世界ランキング26位（2024年3月6日現在）



本会から韓国代表として五輪・各種アジア大会派遣選手・役員



オリンピック

年度	大会	開催都市	競技・種別	姓 名	メダル獲得	選手	役員	合計
1948	サンモリツ冬季五輪	スイス	選手団本部	崔龍振		1	1	
1952	ヘルシンキ五輪	フィンランド	選手団本部	蔡洙仁		1	1	
1960	ローマ五輪	イタリア	選手団本部	蔡洙仁、辛熙、金炳榮 許泰成、董玉模、張昌洙		6	6	
1964	インスブルック冬季五輪	豪州	スキー 選手団本部	趙鏞石 田連壽、蔡洙仁 崔昊勳、姜進旭		1	4	5
1964	東京五輪	東京	柔道 体操 陸上 射撃 選手団本部	金義泰 姜壽一、鄭利光 張宗吉 朴三圭 蔡洙仁	金義泰(銅メダル)	5	1	6
1968	グルノーブル冬季五輪	フランス	選手団本部	鄭建永、蔡洙仁、田連壽		3	3	
1968	メキシコ五輪	メキシコ	水泳飛込 選手団本部	朴貞子 蔡洙仁		1	1	2
1972	札幌冬季五輪	札幌	選手団本部	蔡洙仁		1	1	
1972	ミュンヘン五輪	ドイツ	柔道 射撃 バレーボール レスリング 選手団本部	吳勝立、監督:金義泰 朴性台、金南九、朴道根 禹甲石 郭光雄 鄭建永、蔡洙仁、李道述 朴源邦、延祥、金昌式	吳勝立(銀メダル)	6	7	13
1976	モントリオール五輪	カナダ	柔道 射撃 選手団本部	朴英哲 朴道根 蔡洙仁	朴英哲(銅メダル)	2	2	4
1980	モスクワ五輪	ロシア	選手団本部	蔡洙仁		1	1	
1980	レーゲンスハイド冬季五輪	米国	フィギュアスケート	申惠淑		1	1	
1984	ロサンゼルス五輪	カナダ	選手団本部	蔡洙仁		1	1	
1988	ソウル五輪	ソウル	競泳 シンクロ	尹周一、劉弘美、朴珠理 金美津穂		4	4	
2004	アテネ五輪	ギリシャ	選手団本部	競泳コーチ:金一波		1	1	
2008	北京五輪	中国	選手団本部	競泳コーチ:金一波		1	1	
2016	リオデジャネイロ五輪	ブラジル	柔道	安昌林		1	1	
2021	東京五輪2020	東京	柔道 選手団本部	安昌林、金知秀 副団長:崔潤	安昌林(銅メダル)	2	1	3
					合 計	23	32	55

各種アジア大会

年度	大会名	開催都市	競技・種別	姓 名	メダル獲得	選手	役員	合計
1954	FIFAワールドカップ スイス大会極東予選	東京	サッカー	李錫儀		1		1
1954	アジア射撃選手権	東京	射撃	李珍洙		1		1
1958	アジア競技大会	東京	ホッケー	建国OB 蔡洙仁	銅メダル	1	1	2
1950	アジア野球選手権	東京	野球	李寿讚		1		1
1962	アジア野球選手権	台北	野球	李寿讚、金星根	銀メダル	2		2
1963	アジア卓球選手権	マニラ	卓球	朴重吉	銅メダル	1		1
1963	アジア野球選手権	ソウル	野球	李寿讚、申鎬均、徐廷利 朴正一	金メダル	4		4
1966	アジア競技大会	バンコク	卓球 テニス	朴重吉 任忠良 蔡洙仁	銅メダル	2	1	3
1967	アジア射撃選手権	東京	射撃	金泰佑、朴性台 金泰洙、朴三圭	金メダル	4		4
1970	アジア競技大会	バンコク	円盤投 ハンマー投 水泳飛込	鄭福松 具仁太 朴貞子 蔡洙仁		3	1	4
1972	アジアバスケットボール選手権	台北	女子バスケ	趙榮順	金メダル	1		1
1974	アジア競技大会	テヘラン	体操 射撃	金國煥 金南九、朴道根、李鍾泰	金メダル2	4		4
1974	アジア柔道選手権	ソウル	柔道	權盟那	銀メダル	1		1
1975	アジア射撃選手権	マニラ	射撃	金南九、朴榮周	金メダル	2		2
1978	アジア競技大会	バンコク	フェンシング 射撃	車律、張守榮 朴道根 蔡洙仁	金メダル2	3	1	4
1982	アジア競技大会	ニューデリー	ゴルフ	金基憲 蔡洙仁	銀メダル	1	1	2
1985	アジアユース体操	東京	国際審判	鄭利光、姜寿一、全康夫		3	3	
1986	アジア冬季競技大会	札幌	選手団本部	全康夫		1		1
1986	アジア競技大会	ソウル	水球 競泳 乗馬 ゴルフ 体操審判	李泰暢、コチ李仁暢 劉弘美 徐仁教 金基憲 全康夫、姜壽一 蔡洙仁、金光良	金2銀1銅1	4	5	9
1988	アジア水泳選手権	中国・広州	競泳	尹周一	銅メダル	1		1
1990	アジア競技大会	北京	競泳 ソフトボール	尹周一、劉弘美 金美絵、李依子、李亞矢 李景寿、朴奈美、玄京子 金祥代、金幸江		10		10
2001	アジア柔道選手権	ウランバートル	柔道	秋成勲	金メダル	1		1
2011	アジア冬季競技大会	カザフスタン	フィギュアスケート	金彩華		1		1
2015	アジア柔道選手権	クウェート	柔道	安昌林	銅メダル	1		1
2017	アジアジュニア柔道選手権	キルギスタン	柔道	金知秀	金メダル	1		1
2017	アジア柔道選手権	香港	柔道	安昌林	金メダル	1		1
2018	アジア競技大会	ジャカルタ	柔道	安昌林	銀メダル	1		1
2019	アジアジュニア柔道選手権	台北	柔道	許海実	銅メダル	1		
2019	アジアパンアメリカン柔道選手権	フジャイラ	柔道	安昌林	銀メダル	1		1
2021	アジアオセアニア柔道選手権	ビシケク	柔道	安昌林 金知秀 趙曉熙	金メダル 銀メダル 銅メダル	3		3
2023	アジア競技大会	杭州	柔道 選手団本部	許海実 選手団長:崔潤		1	1	2
					合 計	59	15	80



本会から韓国代表として各種国際スポーツ大会派遣選手・役員

世界選手権・大会

年度	大会名	開催国・都市	競技	姓名	成績	選手	役員	合計
1961	世界柔道選手権	フランス・パリ	柔道	金徳容、金東培、金義泰	金2	3		3
1962	世界射撃選手権	エジプト・カイロ	射撃	金奉佑		1		1
1962	欧洲射撃選手権	イタリア・ローマ	射撃	金奉佑		1		1
1965	世界卓球選手権	ユーゴスラビア	卓球	朴重吉	銅	1		1
1965	世界柔道選手権	ブラジル・リオデジャネイロ	柔道	金義泰、朴清三 劉泰言、辛雄健	銅	4		4
1966	世界射撃選手権	西独・ウイルバーデン	射撃	金南九、千学祥		2		2
1967	ユニバーシアード東京	東京	テニス 体操 柔道	姜明運 姜壽一 金忠照、吳勝立、朴清三	銀4 1 3	1 1 3		3
1967	世界射撃選手権	イタリア・コロニア	射撃	朴三圭、金南九		2		2
1967	世界柔道選手権	米国・ソルトレイクシティ	柔道	金忠照、朴清三 選手団長:李熙健 選手団本部:李道述	銅	2	1 1 1	2
1969	世界柔道選手権	メキシコシティ	柔道	金七福、吳勝立	銅2	2		2
1969	世界射撃選手権	スペイン・サンバッサン	射撃	金南九、朴性台	銀	2		2
1969	世界ジュニア選手権	米国	テニス	金泰先		1		1
1970	世界ジュニア選手権	米国	テニス	金泰先	銀	1		1
1970	世界射撃選手権	米国・フェニックス	射撃	金奉佑、朴三圭 金南九、朴性台 役員:朴魯文		4	1	5
1971	FIBA女子ワールドカップ	ブラジル	バスケットボール	趙栄順		1		1
1973	世界射撃選手権	豪州・メルボルン	射撃	金奉佑、金南九		2		2
1973	デビスカップ		テニス	金玟一		1		1
1974	デビスカップ		テニス	金玟一		1		1
1974	世界射撃選手権	スイス・ベルン&トゥーン	射撃	金南九		1		1
1975	デビスカップ		テニス	金玟一		1		1
1978	世界射撃選手権	ソウル	射撃	李善一、朴道根、朴栄周		3		3
1978	フェンシング欧洲選手権	西ドイツ	フェンシング	車律		1		1
1979	世界選手権	豪州	フェンシング	車律	銅	1		1
1981	ユニバーシアード	ルーマニア・ソフィア	フェンシング	車律		1		1
1981	フェンシング世界選手権	フランス	フェンシング	車律		1		1
2001	世界柔道選手権	ドイツ・ミュンヘン	柔道	姜義啓		1		1
2007	四大陸フィギュアスケート	米国・コロラドスプリングス	フィギュアスケート	金彩華		1		1
2009	冬季ユニバーシアード	中国・ハルビン	フィギュアスケート	金彩華		1		1
2007	世界水泳選手権	豪州・メルボルン	水泳	競泳コーチ:金一波			1	1
2009	世界水泳選手権	イタリア・ローマ	水泳	競泳コーチ:金一波			1	1
2010	FIFA U20女子ワールドカップ	ドイツ	サッカー	康裕美	銅	1		1
2011	世界水泳選手権	中国・上海	水泳	競泳コーチ:金一波			1	1
2013	世界ジュニア柔道選手権	スロベニア・リュブリヤナ	柔道	安沙好		1		1
2014	世界ジュニア柔道選手権	米国・フォートローダーデール	柔道	安昌林、安沙好	金1銅1	2		2
2015	FIFA女子ワールドカップ	カナダ	サッカー	康裕美	16強	1		1
2015	ユニバーシアード光州	韓国・光州	柔道	安昌林	金1銀1	1		1
2015	世界柔道選手権	カザフスタン・アスタナ	柔道	安昌林	銀1銅1	1		1
2017	世界ジュニア柔道選手権	クロアチア・ザグレブ	柔道	金知秀	銅	1		1
2018	世界柔道選手権	アゼルバイジャン・バクー	柔道	安昌林、金知秀	金	2		2
2019	FIFA女子ワールドカップ	フランス	サッカー	康裕美		1		1
2019	世界柔道選手権	東京	柔道	金琳煥、金知秀	銀	2		2
2021	世界柔道選手権	ハンガリー・ブダペスト	柔道	趙睦熙		1		1
2022	世界柔道選手権	ウズベキスタン・タシケント	柔道	許海実		1		1
2023	世界柔道選手権	カタール・ドーハ	柔道	許海実		1		1
					合計	64	6	70

国際大会でのメダル獲得数

大会種別	金	銀	銅	合計
五輪		1	2	3
世界選手権	5	8	11	24
アジア大会	13	5	6	24
計	18	14	19	51

韓国国体選手派遣回数と人数

派遣年	回数	派遣人数
1949年		
1953～2023年	70	10,119 (冬季国体含む)

韓国国体でのメダル獲得数

金	銀	銅	合計
327	205	238	770

第105回全国体育大会・慶尚南道2024

The 105th National Sports Festival

在日同胞優秀選手を募集



제105회 전국체육대회



在日本大韓体育会では2024年10月に慶尚南道で開催される、第105回全国体育大会(韓国国体)に派遣する、在日同胞の優秀選手を募集しています。

韓国国体は、各市・道の厳しい予選を勝ち抜いた韓国国内の地域代表選手と、世界18カ国の大韓同胞選手が一堂に会する韓国最大のスポーツ大会です。

韓国代表も含めたトップレベルの選手たちと各国海外同胞選手が技を競い、交流を深める場となっています。

さらに、在日同胞アスリートにとって、韓国代表に選抜されるチャンスとなっています。

開催期間 2024年10月11(金)～17日(木)

開催地 金海市と慶尚南道17市郡

スローガン 活気に満ちた慶尚南道
共にする大韓民国!

主催 大韓体育会

支援 文化体育観光部

主管 慶尚南道/慶尚南道教育厅/慶尚南道体育会

参加費用 在日同胞選手団の航空費・宿泊費・食費等は本会で負担

在日同胞選手団の募集競技

● 海外同胞競技

- ▼テニス
- ▼サッカー
- ▼ボウリング
- ▼ゴルフ
- ▼卓球
- ▼スカッシュ
- ▼テコンドー
- ▼剣道

● 国内競技

- ▼陸上
- ▼水泳
- ▼ボクシング
- ▼レスリング
- ▼重量挙げ
- ▼柔道
- ▼アーチェリー
- ▼体操
- ▼フェンシング
- ▼ヨット
- ▼乗馬
- ▼カヌー
- ▼ウシュー
- ▼近代5種
- ▼ボディービル
- ▼トライアスロン
- ▼他全49種目(公開競技2含む)

※競技年齢区分:男女ともU18の部(旧高校の部)、大学の部、一般の部

出場資格

① 海外同胞競技

- ◆2006年9月1日以前の出生者(満18歳以上)
- ◆韓国国民で日本に1年以上の居住者
- ◆韓民族の血統を継ぐ日本居住者
- ※プロ及びプロ経験者は参加できません

② 国内競技

- ◆韓国国籍保持者(重国籍含む)
- ◆2024年4月時点で高校生以上

ご周囲の優秀なスポーツ選手を
ぜひ体育会までご紹介下さい。

■□問い合わせ先:「第105回 全国体育大会」在日同胞選手団事務局

TEL(03)3454-8894 FAX(03)3454-8895 e-mail:info@kscj.org

